

シ之ニ金品ヲ授與スルニ因リ成立スルモノニシテ自己ノ爲メニ囑託スルト他人ノ爲メニスルト又其金品カ自己ノ所有物ナルト他人ノ所有物ニシテ他人ノ手ヨリ出テタルトハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス

瀆職法ニ所謂賄賂ハ吾人ノ需要ヲ充タスニ足ル一切ノ利益ヲ包含ス從テ酒食ノ饗應ヲ爲スカ如キモ亦賄賂ノ物體タルコトヲ妨ケス

瀆職法第一條第二項ハ賄賂ヲ贈與提供又ハ約束シタル者ノ資格ニ付キ何等ノ制限ヲ付セザルヲ以テ其第一項ニ掲ケタル議員、會員、委員又ハ總代以外ノ者ハ勿論縱令此等ノ資格ヲ帶フル者ト雖モ苟モ其職務ニ關シ議員、會員、委員又ハ總代ニ對シテ賄賂ヲ贈與提供若クハ約束スルニ於テハ同條ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス

瀆職法第一條第二項ニ所謂賄賂ノ提供トハ相手方ニ對シ賄賂ノ受領ヲ求ムル意思ノ表示ニシテ相手方ノ承諾若クハ受領ヲ伴ハサル賄賂者ノ一方行爲ヲ指稱シ收賄者ノ方面ニ於ケル賄賂ノ要求ト其歸趣ヲ同リスルモノトス

縣會議員ニシテ其縣會役員ノ選舉ニ關シ金錢ヲ授受シ若クハ之カ約束ヲ爲シタル者又ハ右ノ行爲ヲ教唆シタル者ハ瀆職法ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス

數人共同シテ一團ト爲リ賄賂ヲ收受費用シタル場合ニ於テ其價額ヲ追徴スルニハ分配金額ノ多少ニ拘ハラズ各犯人ヲシテ平等ニ分割シタル數額ヲ負擔セシムヘキモノトス

贈賄罪(瀆職法第一條第二項)ノ成立ニハ其目的タル金品カ必スシモ犯人ノ所有ニ屬スルコトヲ要セス唯犯人カ現ニ贈賄者ノ地位ニ立テ自ラ其目的物ノ給付ヲ爲シ得レハ足ルモノトス衆議院議員ニ當選シタル者ハ議員タルノ資格ト同時ニ其職務權限ヲモ取得スヘキモノニシテ唯其行使ニ一定ノ時期アルニ過キス從テ該時期到達以前ニ於テモ其職務ニ關聯シテ他人ノ請

三七
三七

四一
六一〇

四一
六一〇

四一
六一〇

四一
六一〇

四一
六一〇

四三
一八四三

四三
一八四三

四三
一四二三

三三
二〇

三三
二〇

三五
五一

三七
一八七四

徵兵令

○徵兵忌避罪ハ徵兵令第三條ノ徵兵適齡ニ達シテ初メテ成立スヘキモノトス

○徵兵忌避ノ豫備手段トシテ虚偽ノ入籍届ヲ爲スモ犯罪ヲ構成スルコトナシ

○徵兵適齡以前ニ於テ兵役ヲ免ルル爲メニ用ヒタル詐欺ノ所爲ハ徵兵忌避罪ノ豫備ニ止マリ滿二十年ニ達シテ始メテ其犯罪ヲ構成ス

○徵兵令第三十一條ノ犯罪ヲ構成スルニハ犯人ニ徵兵適齡者ノ身分アルコトヲ要ス從テ他人カ適齡者ノ爲メ同條所定ノ行爲ヲ爲スモ實行正犯ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

○兵役ヲ免レントスル者ノ行爲ヲ容易ナラシメタル場合ニ於テ苟モ其幫

助ヲ受ケタル者カ徵兵適齡者ノ身分ヲ有スル以上ハ幫助ヲ爲シタル者ハ其身分ノ如何ニ拘ハラズ從犯罪ヲ構成スルモノトス

○ 苟モ兵役ヲ免ルルノ目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シタル者ハ検査ノ結果兵役ヲ免レタルト否トニ論ナク徵兵令第三十一條ニ依リテ處罰セラレヘキモノトス

○ 徵兵令第二十三條ニ所謂「第十三條第一項ニ掲クル學校ニ在校ノ者」トハ眞ニ其學校ニ入學スルノ意思ヲ有シ通學ノ可能ナル者カ入學ニ付キ

學校管理者ノ承認ヲ經テ現在其學籍ヲ有スル場合ヲ指稱ス從テ眞ニ入學スルノ意思ナク又ハ通學不能ナルニ拘ハラズ入學ノ申込ヲ爲シ學校管理者ノ承認ヲ受ケタル者ノ如キハ之ニ包含セス

○ 徵兵令第三十一條ノ「兵役ヲ免レンカ爲メ」ナル文詞ハ詐欺ノ手段ヲ用キテ絶對的兵役ノ免除徵集ノ延期又ハ其猶豫ヲ得ントシタル場合ヲ網羅セルモノトス

陸軍刑法

○ 演習召集ハ應召員ヲシテ勤務演習ヲ爲サシムルノ目的ニ出ツルモノナレハ應召員カ勤務演習ニ堪ヘサル傷痍疾病等ハ該召集ニ應セサル正當

ノ事故ナリトス

○ 軍隊ノ役務トハ單ニ勞役勤務ヲ指示スル語辭ニ非スシテ汎ク實科及ヒ學科ノ勤務ヲ包含セルモノトス

○ 陸軍刑法第八條第二號ニ所謂召集中ノ在郷軍人トハ現ニ召集ニ應シ指定ノ召集部隊到着地ニ到着シタル在郷軍人ノ義ニシテ召集令狀ヲ受クルモノ之ニ應セザリシ者ヲ包含セス

○ 應召員カ演習召集ヲ免ルル爲メ醫師ニ依囑シテ虛偽ノ診斷書ヲ作成セシメ之ヲ當該官廳ニ提出シテ召集ニ應セザリシトキハ其各行爲ノ間ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條ノ規定ヲ適用スヘキモノトス

(參照)

陸軍刑法第二百二十四條ニ「疾病ヲ作爲シトアルハ故意ニ疾病ノ原因ヲ作リテ發病シタル場合ノ外疾病ナキニ之アルカ如ク詐ハリ以テ兵役若クハ召集ヲ免レントスル場合ヲモ包含セルモノトス

陸軍刑法第七條第一項ハ徵兵カ故ナク徵集ニ應セサル行爲ヲ處罰スル旨趣ナリトス
歸休兵又ハ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ニシテ召集ノ期ニ後レ十日ヲ經過セル者カ召集期ニ先チ勤務演習猶豫願ヲ提出シタル場合ト雖モ其届出行爲カ果シテ正當ノ理由ニ基キタルモノナルヤ否ヤヲ判斷スルハ事實裁判所ノ專權ニ屬ス

四	三九	四〇	四三	四三	四三
一四九	八五三	一四三四	二七〇	四五七	三三三

三七	三九	三九	三九	三九
一八七四	六七	六七	六七	六七

陸軍治罪法 陸軍召集條例

一一五二

演習召集ハ應召員ヲシテ勤務演習ヲ爲サシムルノ目的ニ出ツルモノナレハ應召員カ勤務演習ニ堪ヘサル傷痍疾病ハ該召集ニ應セサル正當ノ事故ナリトス
應召員カ疾病ニ因リ勤務演習ニ堪ヘサルコト明確ナル場合ニ於テ其事由ヲ届出テ到着地ニ參著セサルハ陸軍刑法第七條第二項ノ所謂故ナク召集ニ應セザリシモノニ非ス

四一

二五四

陸軍治罪法

○陸軍軍法會議理事カ刑事事件ニ關スル調書ヲ作成スル場合ニハ陸軍治罪法ノ法則ニ遵由スヘキモノトス從テ其調書ニシテ刑事訴訟法ノ規定ニ違背スルモノ非ス

四二

九

二九

○現役ニ在ル軍人トハ現ニ隊伍ニ在リテ兵役ノ任務ニ服従スル者ヲ謂フ從テ未タ入營セサル者ハ縱令召集命令ヲ受ケテ或隊伍ニ編入セラレタル場合ト雖モ尙ホ現役ノ軍人ニ非ス

四三

四二七

陸軍召集條例

○陸軍召集條例第五十八條第八十一條ハ演習ノ爲メ召集セラレタルモ傷痍疾病等ニ因リ應召スルコト能ハサル者カ其届出ノ手續ヲ爲ササル行爲ヲ處罰スル旨趣ナリトス

四四

一四二四

○應召員カ演習召集ニ應シ能ハサル正當ノ事故アル場合ニ於テ陸軍召集條例第五十八條ノ手續ヲ履行シタル以上ハ更ニ召集職員ノ審査ヲ受クルコトヲ要セス

四五

二二二

軍機保護法

○軍機保護法第四條第一項ニ所謂防禦營造物ノ狀況ノ錄取ハ其狀況ノ精粗ヲ問ハス又其軍備ノ要機ニ關スル狀況ナルコトヲ必要トセス從テ尙モ許可ヲ得スシテ砲臺ニ海岸砲ヲ据付ケタルコト及ヒ其砲門ノ口徑員數等ヲ新聞紙上ニ錄取シタル以上ハ同條違反ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

四六

四

一九一

○軍機保護法第三條ニ所謂偶然トハ第二條ノ職務ニ因ラスシテ軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件ヲ知得領有シタル一切ノ場合ヲ包含ス從テ其之ヲ知得領有スルニ至リタル原因カ人ニ責任ナキ外界ノ出來事ニ存スルト否トハ同條違犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス
○軍機保護法ニ所謂交付トハ軍事上秘密ノ圖書物件ヲ現實ニ授與スルノ義ナリ

四七

三四一

○苟モ軍事上秘密ノ圖書物件タルコトヲ知リテ其秘密ヲ知ルコトヲ得ザ

四八

三四二

ル者ニ之ヲ交付スルニ於テハ軍機保護法ノ犯罪ヲ構成ス而シテ之ヲ交
付シタルハ軍機ノ漏洩ニ依リテ利ヲ得ントスル共謀者ノ一人ナルト否
ト又賣買ノ如ク其圖書物件ノ所有權ヲ相手方ニ移轉スルニ在ルト否ト
ハ之ヲ問フノ要ナシ

○苟モ我國軍事ノ祕密ニ關スル事項ナル以上ハ其祕密ノ所在地カ國內ナ
ルト否トヲ論セス之ヲ知リテ收集ヲ爲シタル所爲ハ軍機保護法ノ制裁
ヲ受クヘキモノトス

○苟モ軍事上ノ祕密ニ係ル圖書ナルコトヲ知テ故意ニ之カ收集ヲ爲シタ
ル以上ハ自ラ進テ之ヲ探知セシ結果タルト否トヲ問ハス軍機保護法第
一條ニ所謂收集ノ所爲ヲ構成スルモノトス

○軍機保護法第一條ニ所謂收集トハ犯人カ單一葉ノ祕密圖ヲ收容シテ
之ヲ所持スル場合ヲモ包含ス從テ其集收ノ目的タル材料ノ多少ハ犯罪
ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

要塞地帯法

○要塞地帯法ト其地帯ノ區域ヲ定メタル陸軍省告示トハ相俟テ運用ヲ爲
スモノトス從テ官報ヲ以テ正式ニ公布シタル告示ハ該法ト同一ノ效力

ヲ有ス

遺失物法(明治四十年法律第四十五)

(參照)

家宅内ニ於テ拾得シタル物件ヲ不正ニ處分シタル所爲ハ遺失物法第十六條ノ犯罪ヲ構成ス
他人カ置忘レタル物品ヲ取り之ヲ隠匿シタル所爲ハ遺失物法ヲ適用スヘキモノニシテ委託物
費消罪ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

被雇主カ雇主ノ命ニ依リ他人ヨリ金錢ヲ受取ルニ當リ他人カ錯誤ニ依リ過渡シタル金錢ヲ受
ケ之ヲ隠匿シタルハトテ雇主ト被雇主トノ間ニ委託關係ヲ生スルコトナシ從テ被雇主ノ所爲
ニ對シテハ遺失物法第十二條ヲ適用スヘキモノトス

遺失物法第十二條ノ所謂誤テ占有シタル物件ニハ受領者ノ錯誤ニ非スシテ交付者ノ錯誤ニ依
テ之ヲ占有シタルモノヲモ包含ス

當事者雙方ノ違算ニ因リ偶然其一方ノ占有ニ歸シタル物件ハ刑法第三百九十五條ニ所謂受寄
ノ財物又ハ委託ヲ受ケタル物件ニ非スシテ遺失物法第十二條ニ所謂誤テ占有シタル物件ナリ
トス從テ占有者カ不正ニ之ヲ處分シタル所爲ハ遺失物法第十六條ノ犯罪ヲ構成ス

通貨及證券模造取締法

○通貨及證券模造取締法第一條ハ其目的ノ如何ヲ問ハス苟モ兌換銀行券
ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シタル以上ハ之ヲ處罰スル旨趣ナ

遺失物法 通貨及證券模造取締法

三五	一	三五
三四	五	三九
三四	五	四七
三四	九	二七
三六		三〇九

四三	七五	四二
四三	七五	
四三	七五	
四三	七五	

リトス

○通貨及證券模造取締法(明治二十八年法律第二十八號)ニ所謂模造下ハ刑法上偽造ト認め得ヘカラサルモノニシテ貨幣等ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ云フ從テ農工銀行ノ債券ヲ偽造シタルカ如キ所爲ニ對シテハ同法ヲ適用スヘキモノニ非ス

豫戒令

○豫戒命令ニ定メタル期間内ニ適法ノ生業ニ就カサル爲メ豫戒令第二條第一號ノ違犯者トシテ處罰セラレタル以上ハ爾後適法ノ生業ニ就カサレハトテ再ヒ處罰セラルヘキモノニ非ス

警察犯處罰令

○警察犯處罰令第二條第六號ニ依リテ處分セララルヘキ所爲ハ欺罔手段ヲ以テ財物ヲ騙取スルコトヲ目的トセス止タ事實ヲ誇張シ又ハ虛構シテ新聞紙雜誌其他ノ方法ニ依リ其事實ヲ廣告シ以テ不正ノ利益ヲ獲得セシコトヲ圖リタル所爲ナリトス

○偽計ヲ用キテ執行裁判所ニ於ケル競賣ヲ妨害シタル所爲ハ警察犯處罰

三四	九	三四
三六	二	三四
三六	二	三四
三六	二	三四

令第二條第四號ニ謂フ入札ノ妨害ヲ爲シタルモノニ非スシテ新刑法第二百三十三條ニ所謂偽計ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタルモノナリトス

爆發物取締規則

○既ニ爆發スヘキ性質ヲ具備セル諸原料ヲ自己ノ手ニ取集メ必要アルトキハ自由ニ使用シ爆發セシムルコトヲ得ヘキモノト爲シタル以上ハ縱令其藥品其他ノ物品ヲ調合シ一物體ト爲ササルモ爆發物ヲ所持シタルニ外ナラサルヲ以テ爆發物取締規則第三條ニ據リ重懲役ニ處スヘキモノニシテ火藥取締規則第二十五條ニ據リ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノニ非ス

○爆發物取締規則第九條ニ謂フ所ノ湮滅トハ刑法第五百二十二條ニ謂フ如キ罪證ト爲ルヘキ物件ナルニ於テハ其物件ノ消滅セサル以上ハ之ヲ湮滅ト云フヲ得サルモ第九條ニハ罪證ノ湮滅ト云ヒ物件其モノノ湮滅ニ非サルカ故ニ縱令物件ノ形體ハ存スルモ其隱シテ罪證ト爲ルヲ得サルニ至ラシメタルニ於テハ即チ罪證ヲ湮滅シタルモノト云ハサルヲ得ス

火藥取締規則

(明治三十二年法律第六號銃砲火藥類取締法ニ依リ廢止)

四三	二	四三
四三	二	四三
四三	二	四三
四三	二	四三

(參照)

既ニ爆發スヘキ性質ヲ具備セル諸原料ヲ自己ノ手ニ取集メ必要アルトキハ自由ニ使用シ爆發セシムルコトヲ得ヘキモノト爲シタル以上ハ縱令其藥品其他ノ物品ヲ調合シ一物體ト爲ササルモ爆發物ヲ所持シタルニ外ナラサルヲ以テ爆發物取締規則第三條ニ據リ重懲役ニ處スヘキモノニシテ火藥取締規則第二十五條ニ據リ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノニ非ス官廳ノ委任ヲ受ケスシテ火藥ヲ製造シタル者ハ明治十七年第三十一號布告火藥取締規則第二十五條ノ私ニ製造シタルモノナルヲ以テ同規則ノ時代ニ於テ犯シタルトキハ同條項ノ制裁ヲ免レサルモノトス

新聞紙法

○新聞紙法第十九條ニ所謂豫審ノ内容トハ豫審中ノ被告事件ノ事實及ヒ該事件ニ付キ豫審判事ノ爲ス處分ヲ指稱シ又豫審中ノ被告事件ニ關スル事項トハ豫審ノ内容ニ非サルモ其被告事件ニ關係ヲ有スル總テノ事項ヲ汎稱セルモノトス

○新聞紙上ニ掲載シタル或記事中ノ一部分ト雖モ苟モ風俗ヲ壞亂スル事項ノ記載ニ係ルトキハ直ニ新聞紙法第四十一條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

○新聞紙ノ發行ハ發行人之ヲ爲スモノナレハ檢事カ搜查又ハ豫審中ノ被

三五	二五	三三	二五
一〇	一	一〇	二
二四			
七二	一〇五		

告事件ニ關シ掲載發行ノ差止ヲ爲スニハ發行人又ハ其代理人ニ之ヲ通達スルニ依リテ其效ヲ生スルモノトス

○新聞紙法第十九條ニ依ル差止命令ニ所謂證人參考人ト爲ルヘキ者ニハ證人又ハ參考人トシテ既ニ裁判所ノ呼出ヲ受ケタル者ハ勿論未タ其呼出ヲ受ケサルモ當該刑事事件ニ付キ證人又ハ參考人ト爲ルヘキ關係アル者ヲモ包含ス

○新聞紙條例第十六條及ヒ新聞紙法第十九條ハ現ニ豫審繫屬中ノ被告事件ノ内容ニ關スル事項ニ付テハ實際豫審判事ニ於テ之カ取調ヲ爲シ若クハ處分ヲ爲シタルモノナルト否トヲ問ハス當該事件ノ性質上其豫審ノ内容ヲ成スヘキ事項ニ關スル記事ノ一切ヲ擧ケテ新聞紙上ニ掲載スルコトヲ許ササル法意ナリトス

○新聞紙法第二十一條ノ所謂救護中ニハ事實タルト法律上ノ意見タルトヲ問ハス文章ヲ以テ犯罪人若クハ刑事被告人ヲ庇護スル行爲ヲ包含セラルモノトス

(參照)

凡ソ新聞紙ニ記載シタル事項ニシテ苟モ現時豫審中ニ係ル秘密ノ手續ニ關スル上ハ縱令其記載スル所多少實際ノ手續ト異ナル點アルモ又名ヲ道路ノ風説等ニ籍ルモ新聞紙條例第十六條

四三	四三	四三	四三
二七	二四三	二六六	八三六

ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス
 秘密ニ屬シ公ニセサル官ノ文書ヲ裁判所ノ公廷ニ於テ證據トシテ提出セラレ其證據ヲ經タルニモセヨ裁判所ハ裁判ヲ公行シタルニ在リテ其文書ヲ公ニスルカ爲メノ目的ニ非サルヲ以テ尙ホ之カ秘密ヲ保ツノ要アルニ於テハ當該官廳ハ之ヲ秘密ニスルノ責任ヲ有ス故ニ當該官廳ノ許可ヲ得スシテ私事ニ之ヲ新聞紙ニ掲載スルヲ得サルモノトス
 新聞紙條例第十七條ニ所謂刑律ニ觸レタル犯罪人トアルハ一旦刑律ニ觸レタル以上ハ其刑ノ執行ヲ終了シタルト否ト又其者ノ既ニ死亡シタルト否トヲ問ハス總テ包含スヘキモノトス
 新聞紙條例第十六條第一項ニ所謂豫審ニ關スル事項トハ豫審ニ繫リタル被告事件ノ内容ニ屬スル事項ヲ謂フ從テ其外形ニ顯ハレタル加害者若クハ被害者ノ氏名及ヒ殺害前後ノ模様ニ付キ別ニ新聞社カ聞知シタル事柄ヲ新聞紙ニ掲載スルハ右ノ條項ニ抵觸スルモノニ非ス
 新聞紙條例違犯ニ付テハ再犯加重例ヲ用ヒス
 新聞紙條例第十六條ニ所謂豫審ニ關スル事項トハ豫審ニ係ル被告事件ノ内容ヲ謂フ
 新聞紙條例違反罪ト他ノ犯罪ト俱發シタルトキハ他ノ犯罪カ刑法上ノ犯罪ナルト否トヲ問ハス總テ刑法ノ數罪俱發例ヲ適用セス
 新聞紙ニ撰製ノ記事ヲ掲載シ世人ヲシテ一見羞恥厭惡ノ感情ヲ起サシムル所爲ハ風俗壞亂ノ事項ヲ記載シタルモノトス
 新聞紙條例第二十五條ハ官吏侮辱事件ニ適用スルコトヲ得ス
 傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ掲載スルコトヲ得ス(新聞紙條例第十六條第二項)トハ傍聽禁止中ニ於ケル被告事件ノ訊問辯論等ニ關スル内容ヲ掲載スルヲ得ストノ謂ナリ從テ其傍聽ヲ禁止セサル以前若クハ其禁止ヲ解キタル以後ノ事項ヲモ掲載スルコトヲ禁シタルモノトス

二五	二六	二九	三三	三三	三三	三三	三五	三五
五	七	七	二六	二六	二六	二六	三	二
六六	四七	六	七九	七〇	七〇	七〇	五五	三

ノニ非ス

民主主義ト云ヒ階級制度ヲ全廢スルト云ヒ或ハ財富ノ分配ヲ公平ニスルト云フカ如キハ現時ノ制度ヲ破壞スルノ甚シキモノニシテ此等ノ理想ニ基キ政黨ヲ組織シ同志ヲ集合スルニ於テハ社會ノ秩序ヲ害スルモノトス從テ此等ノ事項ヲ新聞紙ニ掲載シタル所爲ハ新聞紙條例第三十三條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス
 新聞紙條例第十三條末項ノ規定ハ其旨趣正誤要求者ノ何人タルヤチ明カニセントスルニ在ルモノトス從テ縱令氏名ノ明記ナキモ其何人ノ要求ニ係ルコトヲ知ルニ足ルトキハ有效ナル申込アリタルモノトス
 新聞紙條例ニハ正誤申込書ノ調製ニ關シ何等ノ規定ナキヲ以テ電報ヲ以テ正誤申込ヲ爲スモ有效ナリトス
 衆議院委員會ニ於ケル秘密ノ事項ハ法律ヲ以テ議員ノ外傍聽ヲ禁シタルモノトス從テ新聞紙上ニ其會議ノ事項ヲ掲載シタル所爲ハ新聞紙條例第十八條第二ニ該當ス
 新聞紙條例第二十五條ニ所謂「私行」トハ各人カ一個人トシテノ行動上ニ於テ爲ス所ノ總テノ行爲ヲ云フ而シテ其行爲ノ犯罪ヲ構成スルヤ否ヤ又其行爲カ他人ノ利害ニ關係シ及ホスヤ否ヤハ之ヲ問ハサルモノトス
 新聞紙ノ編輯人ト發行人トハ各別異ノ資格ヲ有スルモノトス從テ其編輯ニ關スル事務ト發行ニ係ル事務トナ一人ニテ兼掌スル者カ新聞紙條例第二十二條ノ禁令ニ違反シタル場合ニハ一面ハ編輯人トシテ他ノ一面ハ發行人トシテ其刑罰ヲ併科セラルヘキモノナリ
 新聞紙條例第三十三條ニ所謂社會ノ秩序ヲ壞亂スル事項トハ論說タルト雜報タルトヲ問ハス秩序ヲ壞亂スヘキ一切ノ事柄ヲ總稱セルモノトス

三五	三六	三六	三六	三六	三五	三五	三六	三五
二	二	二	二	二	三	三	二	二
三	二七	二七	二七	二七	五五	五五	二七	三

新聞紙法

一一六一

新聞紙條例第三十三條ハ新聞紙ニ社會ノ秩序又ハ風俗ヲ壞亂スル事項ヲ記載シタルトキハ其紙上ニ記名スル發行人編輯人ヲシテ常ニ之方責ニ任セシムルモノトス從テ發行人若クハ編輯人ハ其發行ノ當時不在ナリシト云フカ如キ主張ヲ以テ責罰ヲ免ルルコトヲ得ス

新聞紙上ニ貧富ノ戰爭ト題シ政府軍隊警察等現時ノ統治機關ハ貧者ノ爲メ何等ノ保護ヲ與フルモノニ非サレハ貧者ハ須ク自ラ起テ富者ニ對シ不穩ノ反抗ヲ爲スヘキコトヲ總通煽動シタル所爲ハ明治二十年勅令第七十五號新聞紙條例第三十三條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

新聞紙上ニ新兵諸君ニ與フト題シ軍隊ハ國家ノ獨立ヲ保護スル者ニ非スシテ却テ之ヲ破壞スルモノナリ諸君ハ批評ト自由ノ念ヲ奪ハレ遂ニ專制主義ノ爪牙ト爲テ一箇ノ殺人器ト化ス吾人ハ曰フ決シテ犧牲ノ羊ト爲ル勿レ卑ムヘキ奴隸タルヲ止メヨ虐殺者ニ絶縁ノ宣告ヲ放チテ諸君自身ノ生命ヲ保護スルニ勉メヨ云云ト掲載シタル所爲ハ新聞紙條例第三十二條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

新聞紙條例違反事件ニ付キ被告ニ對シテ罰金ヲ併科スルニハ同條例第三十五條ヲ適用セサルヘカラス

新聞紙條例第十七條第二項ニ違反セル犯罪ハ被告人若クハ受刑人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲メニスル文章ナルコトヲ知り作ラ之ヲ新聞紙ニ掲載スルニ因リテ成立ス而シテ其被告人若クハ受刑人ヲ特ニ救護スル意思ノ有無ハ犯罪ノ成否ニ關係ナシ

新聞紙條例第十七條第二項ノ所謂救護ニハ金錢物品ヲ以テ救助ヲ爲スコトハ勿論文章ヲ以テ被告人又ハ受刑人ヲ庇護スルカ如キ行爲ヲモ包含ス

新聞紙上ニ日本社會黨大會ト題シテ社會組織ニ關スル所有權制度ヲ破壞シ且暴動的同盟罷工ヲ起サシムヘキ記事ヲ掲載シタル所爲ハ新聞紙條例ニ所謂社會ノ秩序ヲ壞亂スル事項ヲ記載

三六

四〇

四〇

四〇

四〇

四〇

四〇

二四六

九六

五三六

七三六

八五二

八五二

八五二

シタルモノニ該當ス

新聞紙ニ掲載シタル記事ニシテ苟モ社會ノ秩序又ハ風俗ヲ壞亂スルモノナル以上ハ掲載ノ目的如何ヲ問ハス新聞紙條例第三十三條ノ制裁ヲ受クヘキモノトス而シテ發行人編輯人ニ於テ其記事カ社會ノ秩序又ハ風俗ヲ壞亂スル事項ナルコトノ認識アリタルヤ否ヤハ犯罪ノ成立ニ何等ノ關係ナシ

新聞紙條例第二十五條ニ所謂誹毀ノ罪又ハ誹毀ノ訴トハ刑法第三百五十八條ノ誹毀罪又ハ其誹毀ニ對スル訴ヲ指稱ス從テ官吏侮辱罪又ハ之ニ對スル訴ハ其侮辱ノ内容カ官吏ニ對シ誹毀ヲ組成スル場合ト雖モ同條例ノ所謂誹毀ノ罪又ハ誹毀ノ訴ニ該當セス

新聞紙ノ編輯人ト發行人トハ法律上責任ヲ異ニシ其資格モ亦相同シカラス故ニ其編輯事務ト發行ニ關スル事務トチ一人ニテ兼掌スル者カ新聞紙條例第三十三條ニ違反シタルトキハ一面ハ編輯人トシテ他ノ一面ハ發行人トシテ其罪責ヲ負擔スルチ當然トス

新聞紙條例ハ刑法及ヒ刑法施行法ノ實施ニ因リ其主刑ノ刑名ヲ變更セラレタルモ同條例第三十三條ノ違反事件ニ付テハ其刑期金額變更セラレサルヲ以テ刑法第六條ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

被告ノ新聞雜誌ニ記載シタル事實カ風俗ヲ害スルモノナルヤ否ヤハ法律上ノ問題ニ屬スルモノトス

新聞紙上ニ市有不可論ト題シ刺客ノ行動ヲ以テ惡政ニ對スル有效ノ制裁ナリトシテ暗ニ之ヲ賞揚シ公衆ニ對シテ危險ナル精神ヲ鼓吹スヘキ傾向アル文詞ヲ掲載シタル所爲ハ新聞紙條例ニ所謂社會ノ秩序ヲ壞亂スル事項ヲ記載シタルモノニ該當ス

新聞紙上ニ熟語辭典及ヒ檢事旅行寶鑑ト題シ或讀者ヲシテ司法權ノ尊嚴ヲ疑ヒ其作用ニ關シ

新聞紙法

一一六三

四〇

四一

四一

四一

四一

四一

四一

二〇九

四〇〇

七三五

一〇六九

八〇

一五二

一六五

出版法

一一六四

悔慢ノ念ヲ生セシムヘキ事項ヲ掲載シタル所爲ハ新聞紙條例第三十三條ノ犯罪ヲ構成ス
 新聞紙條例第二十三條第二項ノ規定ハ當該被告ヲシテ將來ニ涉リ永遠ニ同一名稱ノ新聞紙ヲ
 發行セシメサル趣意ナルヲ以テ縱シヤ一時其發行ヲ廢止シタル事實アリトスルモ將來再ヒ之
 カ發行ヲ爲ササラシムル爲メ該條項ヲ適用シテ禁止ヲ命スルノ妨ト爲ルヘキモノニ非ス
 新聞紙上ニ適法ナル手續ヲ經テ言渡サレタル裁判ニ不法アルモノノ如ク暗示シテ如キ不法
 ノ裁判ニ因ル處罰ハ社會ノ均シク憤慨スル所ナレハ受刑者ニ對シテ多大ノ同情ヲ表スルハ當
 然ナリトノ記事ヲ掲ケタル所爲ハ新聞紙條例ニ所謂社會ノ秩序ヲ壞亂スル事項ヲ記載シタル
 モノニ該當ス
 新聞紙條例第十七條第二項ノ犯罪ハ被告人又ハ受刑人ヲ救護シ若クハ之ヲ賞恤スル爲メニス
 ル文章ヲ新聞紙ニ掲クルニ因リテ完成シ編輯人自身被告人タルノ故ヲ以テ其文章ハ自己ヲ救
 護スル爲メニシタルトキト雖モ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス
 新聞紙條例第十六條第一項ニ所謂豫審ニ關スル事項トハ豫審ニ繫屬セル被告事件ノ内容ニ關
 スル事項ノ義ナリ

出版法

○出版法第十五條ハ學校會社等團體ノ名義ヲ以テスル著作物ハ之ニ對シ
 テ責任ヲ負フ者及ヒ權利ヲ有スル者ノ團體全員ナルヤ否ヤヲ判定スル
 ニ困難ナルヲ以テ一ノ擬制ニ依リ著作ニ關與ノ有無ヲ問ハス其團體ノ
 代表者ヲ著作者ト看做シタルモノトス從テ此等團體ノ代表者ハ著作ノ

四二	二四九
四三	二四九
四四	二四九
四五	二四九
四六	二四九
四七	二四九
四八	二四九
四九	二四九
五〇	二四九
五一	二四九
五二	二四九
五三	二四九
五四	二四九
五五	二四九
五六	二四九
五七	二四九
五八	二四九
五九	二四九
六〇	二四九
六一	二四九
六二	二四九
六三	二四九
六四	二四九
六五	二四九
六六	二四九
六七	二四九
六八	二四九
六九	二四九
七〇	二四九
七一	二四九
七二	二四九
七三	二四九
七四	二四九
七五	二四九
七六	二四九
七七	二四九
七八	二四九
七九	二四九
八〇	二四九
八一	二四九
八二	二四九
八三	二四九
八四	二四九
八五	二四九
八六	二四九
八七	二四九
八八	二四九
八九	二四九
九〇	二四九
九一	二四九
九二	二四九
九三	二四九
九四	二四九
九五	二四九
九六	二四九
九七	二四九
九八	二四九
九九	二四九
一〇〇	二四九

責任ヲ負擔スルト同時ニ著作權者トシテ行動スルコトヲ得
 ○出版法第二十七條及ヒ第二十八條第二項ニ規定セル犯罪ハ必スシモ公
 然ノ所爲タルコトヲ要セス
 ○荷モ販賣ノ目的ヲ以テ圖書ヲ印刷シ之ヲ他人ニ賣却シタル以上ハ唯一
 人ニ賣却シタルトキト雖モ尙ホ之ヲ發賣ト謂ハサルヘカラス
 ○風俗ヲ壞亂スル文書圖書ト雖モ之ヲ出版セントスルトキハ出版法第三
 條ノ規定ヲ遵守セサルヘカラス

著作權法

○二學會ノ雜誌編輯人カ著作權ヲ登錄シ順次後任ノ編輯人ニ之ヲ讓渡シ
 タル場合ニ於テハ現任ノ編輯人ハ僞作者ニ對シテ有效ニ告訴ヲ爲シ得
 ルモノトス而シテ其編輯人カ一個人ノ資格ニ於テ著作權ヲ有スルヤ否
 ヤハ告訴ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ボサス
 ○著作權法第十五條第三項ハ著作權ノ讓渡又ハ質入ハ之ヲ登錄スルニ非
 サレハ民事上其權利ノ優先ヲ争フカ如キ場合ニ於テ第三者ニ對抗スル
 コトヲ得スト規定シタルニ止マリ登錄ナキ讓渡ハ絕對的ニ效力ナシト
 スルモノニ非ス故ニ其讓渡ニシテ適法ナル以上ハ縱令登錄ヲ經サルモ

著作權法

一一六五

三七	一三五
三九	一三五
四〇	一三五
四一	一三五
四二	一三五
四三	一三五
四四	一三五
四五	一三五
四六	一三五
四七	一三五
四八	一三五
四九	一三五
五〇	一三五
五一	一三五
五二	一三五
五三	一三五
五四	一三五
五五	一三五
五六	一三五
五七	一三五
五八	一三五
五九	一三五
六〇	一三五
六一	一三五
六二	一三五
六三	一三五
六四	一三五
六五	一三五
六六	一三五
六七	一三五
六八	一三五
六九	一三五
七〇	一三五
七一	一三五
七二	一三五
七三	一三五
七四	一三五
七五	一三五
七六	一三五
七七	一三五
七八	一三五
七九	一三五
八〇	一三五
八一	一三五
八二	一三五
八三	一三五
八四	一三五
八五	一三五
八六	一三五
八七	一三五
八八	一三五
八九	一三五
九〇	一三五
九一	一三五
九二	一三五
九三	一三五
九四	一三五
九五	一三五
九六	一三五
九七	一三五
九八	一三五
九九	一三五
一〇〇	一三五

譲受人ハ完全ニ其權利ヲ取得セルモノトス

三七

七六

○著作權法第一條ニ所謂複製トハ原著作物ト全然同一ナルモノヲ再製スル行爲ノミヲ云フニ非ス原著作物ノ枝葉ニ於テ多少ノ修正増減ヲ加フルモ其旨趣彼此同一ナル程度ノモノヲ作製スル行爲モ亦之ニ包含ス
○著作權法第四十七條ニ所謂本法ノ保護トハ單ニ新法ニ定メタル保護其モノヲ指稱スルニ止マリ従前ノ著作物ハ新法所定ノ條件ヲ具備セサレハ其保護ヲ享有セシメサルノ意義ニ非ス

三七

一七八

○著作權法施行前ヨリ著作權ノ存續セル定期刊行物ハ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記セサルモ著作權者ニ於テ之ヲ複製スルノ專權ヲ有ス故ニ苟モ其承諾ヲ經スシテ轉載シタル以上ハ縱令記事ノ出所ヲ明記スルモ偽作ノ刑責ヲ免レサルモノトス

三七

一七八

○人又ハ物ノ形象ヲ描寫シタル繪葉書ハ著作權法第一條ノ所謂圖書ナリトス

四〇

二六三

○著作權ノ享有ハ登録ノ有無ニ依リテ左右セラルルモノニ非ス從テ著作
者カ登録ヲ爲ササルモ其著作權ヲ侵害シタル者ハ偽作ノ制裁ヲ免レサルモノトス

四〇

二六三

(同法)

著作者カ其權利ヲ登録スルト否トハ唯偽作者ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スルヲ得ルト否トノ差アルニ止マリ其權利ハ登録ノ有無ニ拘ハラズ常ニ之ヲ享有スルモノトス

三六

一三〇五

會計法

○會計法第十條ニ所謂當該官吏トハ廣ク租稅徵收ノ資格ヲ有スル者ノ謂ニシテ必スシモ收入官吏ニ限ルモノニ非ス

三三

一〇六

兌換銀行券條例

○兌換銀行券條例第十二條ハ刑法ノ施行ニ依リ自ラ廢止セラレタルモノトス故ニ兌換銀行券ヲ偽造シタル所爲ニ對シ刑法第四百八條第一項ト兌換銀行券條例第十二條トヲ併セテ適用シタル判決ハ不法ナリ

四二

四五六

(參照)

兌換銀行券偽造罪ヲ處斷スルニ當リ日本銀行兌換銀券條例第十二條ヲ適用セサル判決ハ法律ノ理由ヲ明示セサル瑕疵アリトス
兌換銀行券ノ偽造變造ニ關スル犯罪ヲ刑法ノ偽造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷スルハ兌換銀行券條例第十二條ノ規定ニ依ルヘキモノトス從テ兌換銀行券ノ偽造變造ニ關スル犯罪ヲ處斷スルニ當リ該法則ヲ適用セサル判決ハ不法ナリ

二九

二四

兌換券偽造器械豫備罪ハ兌換券ヲ偽造スルノ目的ヲ以テ之ヲ偽造シ得ヘキ器械ヲ豫備スルニ因リテ成立ス從テ其器械カ兌換券ノミヲ偽造シ得ヘキモノニシテ他ニ用方ナキモノナルト否

三四

一六

會計法 兌換銀行券條例

下ハ犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ヲ及ボサス

大藏省證券條例

○大藏省證券條例第十條ノ告示ハ大藏省證券ノ所有者ヲ保護スル爲メ亡失シタル證券ノ發見セラルルマテ其授受賣買引換及ヒ仕拂ヲ差止ムルニ過キスシテ之ヲ無効ト爲スモノニ非ス

國稅徵收法

○酒類製造營業者ノ妻カ共謀シテ營業者ノ財産ヲ隱匿シタル所爲ハ犯罪ヲ幫助シタルニ過キササルヲ以テ國稅徵收法第三十二條第一項ヲ以テ論スヘキモノニ非スシテ同條第三項ヲ以テ論スヘキモノトス

○國稅徵收法第三十二條第一項ノ所爲ハ必スシモ滯納處分開始以後ニ係ルコトヲ要スルモノニ非ス然レトモ納税人ニシテ滯納處分ヲ受クルコトナケレハ國庫ニ對シ損害ナキヲ以テ滯納處分ノ開始ヲ待チ之ヲ處罰スルニ過キササルモノトス

○國稅代納義務者カ未タ徵收ノ告知ヲ受ケサル以前ニ財産ヲ藏匿脱漏シタルトキト雖モ其後滯納者ト爲リタル以上ハ國稅徵收法第三十二條ヲ

三八

七一九

四二

九二二

三四

七

四

三五

五

三三

適用シ處斷スヘキモノトス

○國稅滯納處分法ニ依リ入札ノ方法ヲ以テ滯納者ノ財産ヲ公賣ニ付スル場合ニ於テハ其財産ノ所有權ハ收稅官吏カ開札ノ上最高入札者ノ何人ナルカヲ知リタルトキ直ニ該入札者ニ移轉スルモノニ非スシテ收稅官吏カ之ヲ落札者ト爲シ財産賣却ノ決定ヲ爲スニ因リ始メテ其入札者ニ移轉スルモノトス

○納税者カ國稅徵收法第九條ニ依リ督促ヲ受ケ指定ノ期限内ニ税金ヲ完納スルニ於テハ縱令藏匿脱漏等ノ行爲アルモ國庫ハ何等ノ損害ヲ受ケサルヘキヲ以テ同法第三十二條ヲ適用スルニハ納税者カ藏匿脱漏等ノ行爲前又ハ其後右ノ期限ヲ經過シ滯納者ト爲リタル事實アルコトヲ要ス

○納税者カ税金ノ逋脱ヲ圖リ其所有物ヲ賣却シ相手方ハ情ヲ知テ之ヲ買受ケタル場合ニハ納税者ノ所爲ハ國稅徵收法第三十二條第一項ニ該當シ相手方ノ所爲ハ同條第三項ニ該當ス而シテ同法第十五條ハ政府ノ取消權ヲ規定シタルニ過キスシテ斯ノ如キ場合ニ第三十二條ノ適用ヲ妨クルモノニ非ス

○苟モ國稅ノ徵收ヲ免ルルノ目的ヲ以テ財産ヲ藏匿脱漏シタル事實及ヒ

三五

五

二七二

三七

二八九

三七

二六四

三七

一九四九

國稅滯納ノ事實アル以上ハ常ニ國稅徵收法第三十二條第一項ノ犯罪ヲ構成ス從テ其財産ヲ藏匿脱漏シタル所爲カ滯納ノ後ニ在ルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシ

(同主旨)

國稅徵收法第三十二條第一項ハ納稅者カ其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シ以テ國庫ニ損害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスル者ヲ罰スルモノトス從テ滯納者ト爲リタル後ノ行爲ノミヲ罰スルノ法意ニ非ス

國稅徵收法第三十二條第一項ハ納稅者カ其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シ以テ國庫ニ損害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスルモノヲ罰スルノ旨趣ナリトス從テ法文ニ滯納者トアルモ之カ爲メ必スシモ滯納者ト爲リタル後ノミヲ罰スルノ旨趣ニ非ス

國稅徵收法第三十二條ハ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シ以テ國庫ニ損害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスル者ヲ處罰スルモノナレバ其藏匿脱漏等ノ行爲カ滯納者ト爲リタル後ニ係ルト否トハ犯罪ノ成否ニ影響ヲ及ホスコトナシ

○國稅滯納者カ同時ニ若クハ連續シテ財産ノ藏匿及ヒ脱漏ヲ爲シタルトキト雖モ其所爲ハ藏匿脱漏ノ名稱ノ下ニ一罪ヲ以テ論スヘキモノニシテ二罪ニ問フヘキモノニ非ス

國稅滯納處分法(明治三十年法律第二十一號) 國稅徵收法ニ依リ廢止

三元

三元

三元

三元

三元

六四

七九

一七六

一三四

七六一

(參照)

滯納處分ノ爲メ財産ノ差押ヲ免脱セントスルノ意思ニ出テタル行爲ハ即チ滯納處分ニ對スルノ行爲ニシテ法文ニ滯納處分ニ對シ云云トアルハ其處分開始ノ前後ヲ問フヘキモノニ非ス

關稅法

○關稅法ハ其第七十五條ニ脱稅及ヒ脱稅ノ企圖ニ對シテハ刑罰ノ制裁ヲ付スヘキ旨ノ規定アルモ脱稅ノ目的タル貨物ノ賣買讓渡ニ對シテハ別ニ刑罰ノ制裁ヲ付スルノ規定アルコトナシ從テ脱稅ノ目的タル物件ノ賣買ハ何等ノ犯罪ヲ構成セス

○關稅法ニ依リ沒收スヘキ貨物ハ現ニ犯則當時ノ所有者ノ所有ニ屬スルコトヲ要ス從テ判決當時ニ於テ既ニ犯則當時ノ所有者ノ所有ニ屬セザリシトキハ之ヲ沒收スルヲ得サルモノトス

○關稅法第七十五條ニ「犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス」トアルハ苟モ關稅ヲ違脱シ又ハ通脱ヲ圖リタル貨物ニシテ犯則後所有權ノ異動ナキ限ハ其所
有權カ犯罪當時犯則者ニ在ルト否トヲ問ハス之ヲ沒收スルノ趣意ナリ
○關稅法第八十三條ハ數多ノ犯則者アル場合ニハ各犯則者ヲシテ各
立シテ同條所定ノ價格全部ヲ納付セシムルノ法意ナリトス

二元

二元

二元

二元

二元

二元

一六

八二

一〇四

七四

六三

六三

(同前)

○ 關稅法第八十三條ニ依レハ關稅法ニ依リ沒收スヘキ貨物ハ稅法違反ノ制裁トシテ現物若クハ其價格ヲ以テ犯人ヨリ沒收又ハ徵收ノ處分ヲ爲スヘキモノニシテ國庫ハ必スヤ貨物ト其代表物タル價格トニ付キ何レカ其一ヲ犯則者ヨリ徵收シ之ヲ保有セサルヘカラサルノ法意ナリトス從テ犯則者數名アルトキハ國家ハ各犯則者ニ對シ其價格全部ノ納付ヲ要求スルコトヲ得ヘキモノトス

○ 稅關官吏ノ作成シタル訊問調書ニ付テハ關稅法第九十三條ニ特別ノ規定アルヲ以テ刑事訴訟法ノ規定ニ依據スヘキモノニ非ス

稅關規則(明治三十二年法律第六十) (一號關稅法ニ依リ廢止)

(參照)

甲港ニ於テ他ノ貨物ト共ニ輸入手續ヲ爲スヘキ物品ヲ故テニ積荷目録ニ記載セスシテ乙港ニ廻漕シタル所爲ハ關稅規則第十五條ノ法則ニ違背シタルモノトス

特別輸出港規則(明治三十二年法律第六十) (一號關稅法ニ依リ廢止)

(參照)

特別輸出港ハ開港場ニ非ス

登録税法

三六	一五七八
三三	二二六
三二	二一
三三	二五
三三	二一

○ 登録税法ハ收稅ヲ目的トシタル法律ニシテ其登録ヲ以テ婚姻ノ條件ト爲シタルモノニ非ス

○ 登記印紙ハ登記稅ニ外ナラス從テ一旦正當ノ印紙ヲ貼用シ登記ヲ經タル以上ハ縱令未タ消印ヲ爲ササルモ印紙ノ效用ヲ遂ケタルモノトス

酒造税法

○ 免許ヲ受ケスシテ製造シタル酒類ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ニ非ス
○ 酒類請賣營業人甲者ノ代理人乙者ニシテ其業務擔當中免許ヲ得スシテ酒類ヲ製造シタルトキハ乙者ハ酒造税法第二條第二十二條ノ制裁ヲ免ルルヲ得ス

○ 免稅處分濟ノ腐敗酒ヲ原料トシ更ニ清酒ヲ製造シタル所爲ハ免許ヲ受ケスシテ清酒ヲ製造シタルモノナリトス

○ 酒造營業人ハ其釀造場一箇毎ニ免許ヲ受ケサルヘカラス從テ免許ノ製造場外ニ於テ清酒醪ヲ製造シタル所爲ハ酒造税法第二十二條ニ依リ處斷スヘキモノトス

(同前)

酒類ヲ製造セントスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受ケヘキモノトス從テ免許ヲ受ケ

三〇	三	二四
三二	六	五四
三〇	三	七五
三〇	一〇	一一五
三四	六	五七
三四	一〇	一九

タル製造場以外ニ於テ酒類ヲ製造シタルトキハ免許ヲ受ケスシテ製造シタルモノトス

○免許ヲ受ケサル場所ニ於テ醪ヲ製造シ之ヲ免許ヲ受ケタル場所ニ移シ清酒ヲ製シ査定ヲ免レタルトキハ密造ノ所爲ト清酒ノ査定ヲ免レタル所爲トノ二箇ノ所爲ナリトス

○酒造税法第三十一條ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕等ノ例ヲ用キサルコトヲ規定スルノミニシテ教唆ニ關スル特別ノ規定ナシ從テ刑法第五條ノ教唆ノ規定ハ酒造税法違反ノ場合ニ於テ全然之ヲ適用スルコトヲ要ス

○酒造税法第三十二條ハ代理人家族其他ノ者ノ爲シタル犯罪行爲ヨリ生スル刑罰ノ責任ハ酒類製造人ヲシテ之ヲ負ハシムルコトヲ規定シタルニ過キササルモノトス從テ酒類製造人ノ代理人家族其他ノ者ヲ教唆シテ税法違反ノ行爲ヲ爲サシメタル者ハ刑法第五條ニ依リ酒造税法違反ノ正犯トシテ處罰スヘキモノトス

○酒造税法第二十四條ニ所謂造石數ノ査定トハ製造シタル酒類其モノノ造石數ノ査定ヲ指稱シタルモノトス從テ査定ヲ受クヘキ清酒ノ一部ヲ他ニ移シ同一分量ノ古清酒ヲ補充シタル場合ト雖モ他ニ移シタル清酒ノ査定ハ之ヲ免レタルモノナルヲ以テ同法條ノ犯罪ヲ構成ス

三四	六	四
三四	一〇	一九
三五	四	一七八
三五	九	一

○清酒ト酒粕トヲ混和シタル粕澆醪ヲ搾揚クル爲メ搾器械使用ノ許可ヲ受ケ之ヲ搾揚ケスシテ別ニ製造シ置キタル濁酒ヲ搾ルカ爲メ之ヲ使用シ因テ得タル清酒ヲ粕澆醪ヨリ搾取シタルモノノ如ク假裝シ其査定ヲ經テ之ヲ販賣シタル所爲ハ濁酒ヨリ製出シタル造石數ニ相當スル税金ノ納付ヲ免レント企テタルモノナリトス

○酒造税法第十八條ハ脱税ノ意思ナクシテ酒類ヲ製造場外ニ移出シ又ハ他人ニ讓渡シ質入シ消費スルコトヲ得サラシメタル取締上ノ禁令ニ過キス而シテ同法第二十四條ハ之ト異ナリ脱税ノ意思アリテ査定ヲ免レ又ハ免レントシタル者ヲ罰スヘキ法條ナリトス

○政府ノ免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造スルノ罪ハ免許ヲ受ケサルコトト酒類ヲ製造シタルコトトノ二要素ヲ以テ成立ス而シテ從犯ノ罪ハ正犯ノ犯罪ヲ構成スヘキ要素ノ一ヲ幫助スルトキハ成立スルモノナルヲ以テ他人カ酒類ヲ密造スルノ事實ヲ知り其原料タル米ヲ供給シタル所爲ハ免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル罪(酒造税法第二十二條)ノ從犯ナリトス

○検査ヲ經テ石數ノ確定シタル清酒醪ニ他ノ清酒滓ヲ混和シ醪ノ量數ヲ増加シタルニ拘ハラヌ之カ相當醪ノ検査ヲ免レタル所爲ハ酒造税法第

三五	二	二〇八
三六		四六七
三六		六三〇

二十七條ニ該當ス

○免許ヲ受ケスシテ清酒ト濁酒トヲ密造シタルトキハ二个ノ無免許密造罪ヲ構成ス而シテ其同一ノ場所ニ於テ同時ニ製造シタルヤ否ヤハ一罪ト數罪トノ區別ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

(同三四)

酒造税法ノ規定ハ各酒類毎ニ其製造ノ免許ヲ受ケシムルノ旨趣ナリトス從テ免許ヲ受ケスシテ數種ノ酒類ヲ製造シタル所爲ハ意思繼續ノ一犯罪ニ非スシテ數箇異別ノ犯罪ナリトス

○稅務官吏カ酒造検査ヲ爲スヘキ時ニ關シテハ法律上別段ノ制限ナキヲ以テ夜間ニ之ヲ爲スモ不法ニ非ス

○酒類ノ製造販賣ヲ業ト爲ササル者ノ家族雇人等カ酒造税法ニ違反シタル場合ハ同法第三十二條ノ規定ニ該當セサレハ實際違反行爲ヲ爲シタル者ヲシテ刑罰ノ責任ヲ受ケシムヘキハ當然ナリ

○純酒精ノ容量幾箇ト云フト酒精分何度ト云フトハ元來同一ノコトナルモ酒精及酒精含有飲料稅法並ニ酒造税法ノ解釋上前者ニハ容量トアルヲ以テ之ニ對シ幾箇トシテ其數ヲ現ハシ後者ニハ酒精分トアルヲ以テ何度トシテ其度數ヲ現ハシタルモノニ外ナラス

○酒造税法第二十五條ハ同時ニ免稅ヲ出願シタル清酒ニ付キ其一部ニ關

三六

一六三

三七

二三

三六

五四

三七

三六

三七

三三

三七

三九

シ免稅ヲ得ンカ爲メ特ニ不正ノ手段ヲ運ラシタルトキハ其手段ニ關係ナキ他ノ部分ニ付テモ犯罪成立スルモノトシテ之ヲ處罰スルノ法意ニ非ス

○酒造税法第三十一條ハ同法違反者ニ對シテ絶對的ニ再犯加重ノ例ヲ除外シ何等ノ區別ヲ設ケサレハ一ノ稅法違反ノ所爲ハ他ノ稅法違反ノ所爲トノ關係ニ於テ互ニ前科ト爲リ再犯ト爲ラサルハ勿論他種ノ犯罪ニ對スル關係ニ於テモ亦互ニ前科ト爲リ再犯ト爲ラサルモノト解釋セサルヘカラス

○酒造税法第二十四條ノ犯罪ヲ構成スルニハ單ニ造石數ノ査定ヲ免レ又ハ免レントスルノミヲ以テ足レリトセス其之ヲ免ルル爲メ詐欺其他不正ノ所爲アルコトヲ要ス從テ造石數ノ査定ヲ免ルル爲メニ行ヒタル不正ノ所爲ヲ明示セサル判決ハ違法ナリ

○免許ヲ受ケスシテ清酒並ニ醪ヲ製造シタル場合ニハ清酒製造ノ所爲ニ付キ酒造税法第二十二條ヲ適用スルト同時ニ尙ホ醪製造ノ所爲ニ付テハ酒母醪及麴取締法第九條ヲ適用シ二罪俱發トシテ處分セサルヘカラ

○免許ヲ受ケスシテ製造場ヲ二箇所ニ設ケ酒類ヲ製造シタル所爲ハ二箇

三六

五八

三六

六五

三六

七九

三六

八二

ノ犯罪ヲ構成ス從テ其間意思ノ繼續アル場合ト雖モ之ヲ以テ一箇ノ犯罪トスルヲ得ス

○酒造税法第三十二條ニ所謂酒類ヲ製造スル者トハ事實上酒類ヲ製造スル者ヲ指稱シ其免許ヲ受ケタルヤ否ヤハ問フ所ニ非ス

(同主旨)

酒造税法第三十二條ニ所謂酒類ヲ製造スル者ハ免許ヲ受ケタル酒類製造者ノ外免許ヲ受ケスシテ事實上斯業ニ従事スル者ヲモ包含セルモノトス

○酒造税法第三十二條ハ代理人等ノ税則違犯ノ行爲ニ付テハ製造者又ハ販賣者ヲ以テ其責任者ト爲シ之ヲ處罰スルノ旨趣ニシテ犯則行爲者タル代理人等ヲモ併セテ處罰スルノ法意ニ非ス

○酒造税法中造石税ニ基キ罰金額ヲ定メタル場合ニ於テハ先ツ明治三十五年法律第二十二號ノ規定ニ從ヒ四拾五入ノ法ニ依リ其造石税額ヲ錢位ニ止メ以テ罰金額ヲ算定スヘキモノトス

○酒類製造者カ酒類ヲ密造シタル場合ニハ其所爲カ免許ヲ受ケタル製造場内ニ於テ行ハレタルト否トニ依リ法律ノ適用ヲ同ウセス故ニ其密造ヲ爲シタル場所如何ヲ判定セスシテ直ニ酒造税法第二十四條ヲ適用シタル判決ハ不法ナリ

三元

八七七

三元

八八二

三元

七一九

三元

八八二

三元

九六六

三元

一〇一一

○酒造税法第一條ニ依レハ燒酎ノ原料ニハ米麥其他ノ穀菜ト麴及ヒ水ヲ包含スルコトヲ必要トシ苟モ其一ヲ欠クトキハ同法ニ所謂燒酎ノ分類ニ屬セサルモノトス

四〇

三五

○酒造税法ニ所謂麴トハ種麴ヲ指稱セルモノトス從テ米其他ノ穀菜ニ種麴ヲ加ヘ麴ヲ製作シ水ヲ加ヘテ醪ト爲シタル上之ヲ蒸餾セルモノハ同法ノ燒酎ニ該當ス

四〇

三五

○酒造税法第一條ノ六第四項後段ニ「酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ」トアルハ其前段「米麥粟黍稗若クハ甘藷ト麴及水トヲ原料トシ」トアル文詞ヲ承ケ此等ノ原料ニ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシムルノ意ニ解釋スヘキモノニシテ前段ノ文詞ト關係ナキ獨立ノ項目ヲ爲スモノニ非ス

四〇

三五

○酒造税法第八條第三項ハ犯則ニ係ル酒類造石數ヲ認定スル證據方法ヲ制限シタルモノニ非スシテ當局者カ其造石數ノ査定ヲ爲スニ方リテハ必スシモ同條第二項ノ方法ニ依ルコトヲ要セス現在ノ酒類又其現在セサルトキハ諸般ノ證據物件ニ就テ之ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ規定シタルモノトス

四〇

八二七

○酒類製造ノ免許ヲ受ケサル者カ免許人ノ代理名義ヲ藉リ自己ノ爲メニ製造營業ヲ爲シタル場合ト雖モ該犯則行爲ニ付テハ免許人其責ニ任ス

ヘキモノトス

○酒類製造主カ豫メ申告シタル仕込高以外ニ於テ蒸米麴米及ヒ清酒ヲ原料ト爲シ白酒ヲ密造シタル所爲ハ酒造税法第二十四條ニ所謂不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免レタルモノニ該當ス

酒造税法施行規則

○酒類製造業者カ一旦検査ヲ受ケタル醱ニ水ヲ混和セル場合ト雖モ收税官吏ヨリ酒造用原料品ノ検査ヲ受クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ其使用前更ニ新ナル酒造原料品トシテ之カ検査ヲ受クルコトヲ要ス

酒造税則(明治二十九年法律第二十(八號)酒造税法ニ依リ廢止)

(參照)

生醱モ醸造ニ係ルチ以テ酒類ニ非スト云フヲ得ス
酒類隠蔽ノ所爲ハ繼續犯ナリ從テ之ヲ發見シタルトキハ現行犯トシテ處分スルコトヲ得ヘシ
酒造税則第三十一條ニ依リ造石税三倍ノ罰金ヲ科スルニハ清酒ノ石數ニ基キ其額ヲ算定スルモノトス是故ニ清酒ノ石數ニ依ラスシテ醱ノ石數ニ對シ罰金額ヲ算定シタル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ

四二	四二	四	二五	二九
三三六	七六	八三	一〇一	八
			一九四	三

酒母醱及麴取締法

○苟モ免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醱ヲ製造シタル以上ハ其目的ノ如何ニ拘ハラズ酒母醱及麴取締法第九條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

○免許ヲ受ケスシテ清酒並ニ醱ヲ製造シタル場合ニハ清酒製造ノ所爲ニ付キ酒造税法第二十二條ヲ適用スルト同時ニ尙ホ醱製造ノ所爲ニ付テハ酒母醱及麴取締法第九條ヲ適用シ二罪俱發トシテ處分セサルヘカラス

○酒母醱及麴取締法第一條ハ酒母醱及ヒ麴ヲ製造スル者又ハ麴ヲ請賣スル者ニ對シテハ其製造ノ目的如何ヲ問ハズ總テ同法ヲ適用シ唯タ一ノ除外例トシテ酒造税法ニ依リ酒類ノ製造免許ヲ受ケタル者ニハ之ヲ適用セサルノ法意ナリトス

酒精及酒精含有飲料税法

○苟モ免許ヲ得スシテ竊ニ酒精含有飲料ヲ製造スルニ於テハ酒精及酒精含有飲料税法第十五條同第二條ニ從ヒ處斷スヘキモノトス而シテ之ヲ製造スルニ當リ納稅濟ノ清酒又ハ酒精ヲ用ユルト其他ノモノヲ用ユル

酒母醱及麴取締法 酒精及酒精含有飲料税法

四〇	三	三
二七九	八二	八二

トハ同法ノ問ハサル所ナリトス

○酒精及酒精含有飲料税法第八條ニ依リ免税ヲ受ケタル酒精及ヒ酒精含有飲料ノ原料ト雖モ其原料ヲ以テ更ニ酒精含有飲料ヲ製造シタルトキハ其飲料ノ造石數ニ對スル造石稅ハ之ヲ免除セラレタルモノニ非ス

○純酒精ノ容量幾箇ト云フト酒精分何度ト云フトハ元來同一ノコトナルモ酒精及酒精含有飲料税法並ニ酒造税法ノ解釋上前者ニハ容量トアルヲ以テ之ニ對シ幾箇トシテ其數ヲ現ハシ後者ニハ酒精分トアルヲ以テ何度トシテ其度數ヲ現ハシタルモノニ外ナラス

○酒精及酒精含有飲料税法第四條ニ所謂清酒濁酒等ハ純粹ノ清酒濁酒等ヲ指稱シタルモノニシテ之ヲ基礎ト爲シ他ノ物品飲料ヲ混和シテ製造シタル不純粹ノ飲料ヲ包含スルコトナシ

○清酒濁酒白酒味淋等ヲ基礎トシ他ノ物品ヲ混和シテ特種ノ飲料ヲ製造セントスル者ハ既ニ基本タル酒類ニ付キ製造ノ免税ヲ受ケ納稅ノ義務ヲ完了シタル場合ト雖モ尙ホ酒精及酒精含有飲料税法ノ規定ニ從ヒ別ニ政府ノ免税ヲ受ケ且同法所定ノ造石稅ヲ納付セサルヘカラス

○免税ヲ受ケスシテ若干ノ酒精ヲ製造シタル事實アル以上ハ縱令其數量僅少ナルモ五十圓ノ罰金ヲ免ルルコトヲ得ス(酒精及酒精含有飲料税

三六
九〇五

三六
一六〇四

三七
一三七九

三七
一七三三

三七
一七三三

法第十五條)故ニ密造ニ係ル酒精ノ數量明確ナラサル場合ニ於テ法定

ノ最低罰金額五十圓ニ處シタルハ相當ナリ

○酒精及酒精含有飲料税法ハ石數ヲ以テ課稅ノ標準ヲ定ムルカ故ニ免脫ニ係ル造石稅ノ幾何ナルヤヲ知ルニ付テハ先ツ酒精又ハ酒精含有ノ容量ノ總石數ヲ見テ其原容量百分中ニ含有スル純酒精ノ度數ヲ計リ之ヲ基本トシテ原容量ノ總石數中ニ含有スル純酒精ノ分量幾干箇ナルヤヲ算定セサルヘカラス

○酒精及酒精含有飲料税法ハ酒精ヲ含有スル飲料ニ付キ其製造ノ原料ヲ限定セサレハ酒精ニ他ノ酒類又ハ物品ヲ混和スルト將タ酒精含有飲料ニ酒類又ハ他ノ物品ヲ混和スルトヲ論セス苟モ免税ヲ受ケスシテ其混和ノ結果飲料タル效用ヲ有シ且増量セル一種ノ酒精含有飲料ヲ製造シタルトキハ之ヲ處罰スルノ法意ナリト解釋セサルヘカラス

(同法)

免税ヲ受ケスシテ酒精ヲ含有スル一ノ飲料ヲ製造シタル以上ハ其原料ノ燒酎ナルト酒精ナルト其他ノ物品ナルトヲ問ハス酒精及酒精含有飲料税法第十五條第二條ノ犯罪ヲ構成ス
酒精及酒精含有飲料税法ハ酒精含有飲料ニ付キ其製造ノ原料ヲ限定セサルカ故ニ酒精ニ他物ヲ混和スルト將タ酒精ヲ含有スル液體ニ他物ヲ混和スルトヲ問ハス苟モ免税ヲ受ケスシテ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタルトキハ同法第十五條ノ犯罪ヲ構成ス

三七
一八一九

三七
一二二九

三六
八八〇

三六
四一五

三七
二六二

○酒精及酒精含有飲料税法第二十三條ノ製造者若クハ販賣者ナル文詞ハ一般ノ用例ニ從ヒ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造若クハ販賣スル者ヲ概括セルモノニシテ官ノ免許ヲ得テ此等ノ業務ニ従事スル者ナルト將タ其免許ヲ受ケスシテ事實上斯業ニ従事スル者ナルトヲ問ハサル旨趣ナリトス

○酒精及酒精含有飲料税法ノ所謂酒精ニハ純酒精ハ勿論其他總テ酒精ノ性質ヲ有スルモノヲ包含ス故ニ縱令酒精ニ他物ヲ含有スルモ其性質ヲ變セサル以上ハ之ヲ酒精ト云ハサルヲ得ス

○酒精ト其成分中ニ包含セサル他ノ物質トヲ混和シテ之ヲ飲料ト爲シタル所爲ハ其物質ノ何タルヲ論セス又其混和ノ爲メニ酒類ノ性質ヲ變スルト否ト將タ該混和物カ特種ノ酒類トシテ取引ノ目的ト爲ルト否トニ拘ハラズ一種ノ酒精含有飲料ヲ製造シタルモノニ外ナラサレハ酒精及酒精含有飲料税法ノ支配ヲ受クヘキモノトス

(同主旨)

清酒ニ他物ヲ混和シタルモノハ純粹ノ清酒ニ非スシテ酒精ヲ含有スル一種ノ飲料ナリトス故ニ免許ヲ受ケスシテ之ヲ製造シタル所爲ハ酒精及酒精含有飲料税法第十五條ノ犯罪ヲ構成ス酒類製造人カ清酒ニ番椒丁麩及ヒ甘硝石精ヲ含有スル辛味附ヲ混和スルニ於テハ一種ノ酒精

三六

一三二

四〇

六五〇

四〇

一〇九六

三八

三六三

含有飲料物ヲ製造シタルモノトス

○酒精及ヒ酒精含有飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ代理人家族同居者雇人其他ノ従業者カ爲シタル一切ノ税法違反ノ所爲ニ對シ正犯トシテ責任ヲ負フモノニ非スシテ唯其犯罪行爲カ製造者又ハ販賣者ノ業務ニ關スル場合ニ限リ税法違反ノ責ニ任スルモノトス

○酒精及酒精含有飲料税法ハ正犯及ヒ從犯ニ對スル科刑ニ付キ何等ノ特別規定ヲ設ケサルヲ以テ同一ノ税法違反行爲ニ干與シタル正犯竝ニ從犯ハ刑法總則ノ規定ニ從ヒ各自刑罰ノ制裁ニ服セサルヘカラス

○苟モ免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ製造スルニ於テハ酒精及酒精含有飲料税法第十五條ノ犯罪ヲ構成ス而シテ其原料ノ尼斯ニシテ飲用ニ適セサル事實ハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

(同主旨)

苟モ政府ノ免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ製造シタル以上ハ其飲用ニ適スルト否トニ論ナク犯罪ヲ構成スルモノトス

混成酒税法(明治三十四年法律第八號酒精及酒精含有飲料税法ニ依リ廢止)

(參照)

混成酒税法違反者ヲ處罰スルニ當リ其製造シタル混成酒ノ種類ヲ明示セサル判決ハ理由不備

四〇

七九五

四〇

一〇六六

四〇

一〇六六

四一

三七〇

三九

七〇五

ノ不法アリ

酒精ニ水ヲ混和シ一種ノ飲料酒類ヲ製造シテ販賣シタル所爲ハ混成酒稅法ニ違反シタルモノトス

酒精營業稅法(明治三十四年法律第八號酒精及酒精含有飲料稅法ニ依リ廢止)

(參照)

密賣ノ目的ヲ以テ酒精ヲ買入レ販賣ノ準備ヲ爲シタル所爲ハ酒精營業稅法第十條ニ所謂無免許營業者トシテ處分スヘキモノトス

營業ノ免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ販賣シタル場合ニ在リテハ其製造又ハ買入ハ酒精營業稅法發布以前ニ係ルモ仍ホ同法ノ制裁ヲ受ケヘキモノトス

營業ノ免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ販賣シタル所爲アルトキハ其製造又ハ買入ノ日時カ酒精營業稅法發布以前ニ係ルモ仍ホ同法ノ制裁ヲ受ケヘキモノトス

無免許ニテ酒精ヲ販賣シ利益ヲ得ルノ目的ヲ以テ酒精ヲ買入儲藏シ置キタル場合ニ在リテハ未タ其酒精ハ販賣セサルモ無免許ニテ酒精營業ヲ爲シタルモノトス

密賣ノ目的ヲ以テ酒精ヲ購買シタル以上ハ未タ之ヲ販賣セサルモ酒精營業稅法第十條ニ所謂無免許營業ナリ

酒精營業ナルト其他ノ營業ナルトヲ問ハス苟モ營業ニ供スル目的ヲ以テ酒精ヲ買入レタル者ハ酒精營業稅法第一條ニ所謂自用者ニ非ス

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料

三	三	三〇	二九	二九	二八	三三	三二
三	四	三	九	六	四	三	六
四二	四三	七	八五	七四	四六	一	六四

料戻稅法

○工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法第六條ニ所謂請求トハ税金ノ下戻ヲ得ントスル請求者一己ノ片面的意思表示ヲ指稱ス從テ政府カ其請求ニ應シテ税金ヲ下付シタルト否トハ犯罪ノ成否ニ何等ノ關係ナシ

沖繩縣酒類出港稅則

○他人ヨリ酒類出港ノ囑託ヲ受ケタル者カ沖繩縣酒類出港稅則第六條ニ違背シ酒類ヲ輸出シタルトキハ縱令荷主ニ於テ出港稅ヲ納付セサルノ意思ナカリシ場合ト雖モ尙ホ荷主ヲシテ其罪責ヲ負ハシムヘキモノトス

○沖繩縣酒類出港稅則第一條ニ所謂燒酎トハ酒造稅法第一條ノ六ニ定メタル物品ヲ原料トシテ製造シタル燒酎ヲ指稱ス

○麴醪及ヒ水ヲ原料トシテ製造シタルモノハ燒酎ナルカ故ニ沖繩縣内ヨリ密ニ之ヲ輸出シタル所爲ハ沖繩縣酒類出港稅則第六條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

三九	三九	三九	四一	四二
二九	二九	二九	一〇七	一〇七
二六五	二六五	二九三		
二六五				

骨牌稅法

- 骨牌製造ノ免許ヲ受ケタル者カ自己ノ製造シタル骨牌ヲ販賣スルニ非
スシテ他人ノ製造シタル骨牌ヲ販賣セントスルニハ特ニ販賣ノ免許ヲ
受クルコトヲ要ス
- 骨牌稅法第二十四條ニハ骨牌ノ製造又ハ販賣ノ免許ヲ受ケサル者ノ所
持ニ係ル骨牌ノ廢毀ニ付キ別ニ期間ノ規定アラサルヲ以テ同法施行ノ
日ヨリ七日ヲ經過セハ直ニ其骨牌ヲ廢毀セシムルノ法意ナリト解釋ス
ヘキモノトス
- 骨牌稅法第十九條ニ謂フ本法ヲ犯シタル者トハ同條ノ前後ヲ問ハス該
法律所定ノ規則ニ違反シタル者ヲ指示スルモノニシテ其所謂減輕ナル
文詞ニハ刑法第八十九條第九十條ノ酌量減輕ヲモ包含ス
- 骨牌稅法施行ノ際廢毀スヘキ骨牌ヲ廢毀セスシテ無印紙ノ儘之ヲ所持
シタル行爲ハ同法附則第二十四條第三項ノ犯罪ヲ構成ス而シテ其所持
ノ目的カ販賣ニ在ルヤ否ヤハ犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ヲ及ホサス
- 骨牌稅法第十四條第一項後段ノ販賣ナル文辭ハ營業又ハ營利ノ爲メニ
スル販賣行爲ハ勿論民法上ノ賣渡行爲ヲモ包含セルモノトス

三六	三六	三七	三六
一〇九七	二七六	九四五	二七六

砂糖消費稅法

- 砂糖製造業者カ其製造ノ原料ヲ保稅倉庫ヨリ引取ルニ當リ砂糖消費稅
法第十一條一ノ二項ニ從ヒ擔保ヲ提供シタリトスルモ其製品ヲ他ニ引
渡スニハ同法第七條ノ規定ニ據ラサルヘカラス故ニ消費稅納付前ニ於
テ製品ヲ他ニ引渡シタル事實ヲ認メ乍ラ其製造ノ原料引取ニ付キ提供
セシ擔保アルカ爲メ同第七條ニ所謂擔保提供濟ナリトシテ其所爲罪ト
爲ラスト判決シタルハ擬律錯誤ノ不法アルモノトス
- 砂糖消費稅法第六條ハ一般的規定ヲ以テ消費稅納付前又ハ擔保提供前
ニ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖ヲ引取ルコトヲ禁シ其直接ナルト
否トヲ區別セス從テ消費稅納付前又ハ擔保ノ提供前ニ製造場稅關又ハ
保稅倉庫ヨリ移出セラレタル砂糖ヲ引取リタル者ハ同法第十二條ノ制
裁ヲ免レサルモノトス
- 數種ノ砂糖ヲ使用シ之ヲ混和シテ他ノ種類ニ屬スル砂糖ヲ得ルトキハ
其砂糖ハ之ヲ製造シタルモノトス

三七	四〇	四三
二二八	八七三	九四

織物消費稅法

非常特別税法

一一九〇

○非常特別税法第七條及ヒ織物消費税法第四條ニ所謂引取人トハ織物販賣者ヲ指稱シ販賣者ニ非サル者ヲ包含セス

非常特別税法(明治四十三年法律第七號織物消費税法ニ依リ一部廢止)

(參照)

非常特別税法第八條ノ二第一項第三號ニ所謂實織依頼者トハ營業人ノミニ限リ自用者ハ之ニ包含セス

織物税ハ織物ノ移出ノ都度其價格ヲ査定シ之ヲ標準トシテ賦課スヘキモノトス故ニ稅務官カ豫メ其價格ヲ指定シ爾後之ヲ標準トシテ課稅ヲ爲シ來リタル事實アリトスルモ納稅義務者ハ該官吏ノ認可ヲ經スシテ移出シタル織物ニ付キ豫定ノ價格ヲ以テ納稅ヲ爲スノ既得權アリト主張スルコトヲ得ス

自用ノ爲メ織物製造ノ依頼アリタル場合ニハ其製造者ニ於テ消費稅納付ノ責務ヲ負フモノトス

非常特別税法第十條ハ織物ノ販賣ヲ業トスル者ニ對スル規定ニシテ販賣者ニ非サル一私人ニ關スルモノニ非ス

織物ノ實織者カ營業人ニ非サル自家用依頼者ノ注文ヲ受ケ織物ノ製造ヲ爲ス場合ニ付テハ非常特別税法中別段ノ規定ナケルハ同第十二條ノ原則ニ從ヒ其實織者ニ於テ届出ノ手續ヲ爲ササルヘカラス

織物ノ消費稅納付前之ヲ引取リタル場合ニ於テハ縱令引取人カ織物販賣業者ナレハトテ其織

四三 一六三

四二 七六一

四二 八〇三

四二 八一八

四二 八一八

四二 九三

物ヲ販賣セサル限リ單ニ之ヲ所持シタルノミチ以テ別ニ犯罪(非常特別税法第十七條ノ三)ヲ構成スヘキモノニ非ス

納稅濟ノ證印ハ各稅務署ニ於テ之ヲ爲スモノナルモ稅務署ノ印ヲ以テスヘキヤ將タ稅務監督局ノ印ヲ以テスヘキヤニ付テハ法律上何等ノ規定アルコトナク一ニ實際事務取扱上ノ便宜ニ任スルモノトス

非常特別税法第七條及ヒ織物消費税法第四條ニ所謂引取人トハ織物販賣者ヲ指稱シ販賣者ニ非サル者ヲ包含セス

煙草專賣法

○製造煙草ヲ賣買スルハ煙草專賣法上特ニ煙草賣捌人トシテ指定セラレタル者ニ限リ之ヲ行フコトヲ得從テ煙草賣捌人ニ非サル者カ賣捌人ノ代理名義ヲ以テ製造煙草ヲ賣買シタル所爲ハ煙草專賣法第四十九條ノ犯罪ヲ構成ス

○政府ノ許可ヲ受ケスシテ外國製煙草ヲ船舶ヨリ陸揚シタル所爲ハ其目的如何ヲ問ハス煙草專賣法第四十一條ノ犯罪ヲ構成ス而シテ被告カ爾後該煙草ヲ船内ニ持歸リ之ヲ保存スルモ其罪責ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

○輸出ノ爲メ政府ヨリ製造煙草ヲ買受ケタル者カ其輸出前之ヲ他ニ賣却

四二 七九七

四二 八〇三

四三 一六三

三八 六三二

四二 一

煙草專賣法

一一九一

スルニ於テハ縦令其賣買行為カ輸出ノ目的ニ出テ又ハ之ヲ條件ト爲シタル事實アリトスルモ煙草專賣法第二十七條ノ違犯行為タルコトヲ免

○煙草專賣法ノ犯罪ニ係ル物件カ賣買ニ依リ他ニ輾轉セル以上ハ最後ノ買受人タル犯人ノ手ヨリ之ヲ沒收シ得ルトキト雖モ其他ノ各犯人ニ對シテ追徴ヲ言渡ス妨ト爲ルコトナシ

○煙草專賣法第三十四條ニ所謂製造トハ葉煙草ヲ以テ吸煙其他實用ノ爲メニスル煙草ヲ製造スルコトヲ指稱シ工作ヲ加ヘタル結果其煙草カ荷モ實用ニ適スル以上ハ特ニ製造ノ目的ト爲リタルモノナルト他ノ煙草ヲ製造スルノ際自然ニ生シタルモノナルトハ問フ所ニ非ス

○煙草專賣法第二十四條ハ政府ノ製造ニ係ル煙草ノ信用ヲ確保センカ爲メ單ニ政府ノ封緘ヲ施シタル製造煙草ノ包裹ヲ開披シ若クハ之ヲ改装スル行為ヲモ禁止シタルモノトス故ニ苟モ開披若クハ改装ノ事實アルニ於テハ縦令其煙草ヲ販賣スルニ至ラサルモ同條違犯罪ノ成立ヲ妨ケ

○政府ノ封緘ヲ施シタル製造煙草ノ包裹開披若クハ改装罪ノ成立シタル場合ニ於テハ政府ノ證票ナキ煙草ヲ所持スル事實ハ其開披改装ニ伴フ

四

一八九

四

一八九

四

二六六

四

四四八

必然ノ結果ナルヲ以テ犯人カ更ニ進テ之ヲ讓渡シタル時ニ非サレハ別ニ犯罪ヲ構成セサルモノトス

四

四四八

○轉賣ニ依リ利益ヲ取得スルノ目的ヲ以テ煙草ヲ買受クル者ト雖モ法令ニ基キ煙草賣捌人タル資格ヲ有セサル者ハ煙草專賣法第二十三條ノ所謂消費者ニ該當スルモノトス

四

四四五

○煙草ノ買受人ニシテ煙草賣捌人以外ノ者ナル以上ハ其買受ノ目的カ自己ノ需用ニ在ルト將タ轉賣ニ在ルトヲ問ハス之ニ對シ政府ノ定メタル價格以外ノ代金ヲ以テ煙草ヲ賣渡シタル煙草小賣人ノ所爲ハ煙草專賣法第二十三條第五十條ニ從ヒ處斷スヘキモノニシテ同法第二十二條第四十九條ニ問擬スヘキモノニ非ス

四

四八五

○煙草耕作者試作者又ハ煙草賣捌人等ヲシテ其代理人戸主家族同居者雇人其他ノ從業者カ爲シタル犯法行為ニ付キ罪責ヲ負ハシムルニハ此等ノ者カ其業務ニ關シ煙草專賣法又ハ同法ニ基キテ發セララルル命令ニ違反シタルコトヲ要スルノミニシテ該法律命令中煙草耕作者試作者及ヒ賣捌人等ヲ以テ犯罪ノ主體ト爲シタル條項ニ違反シタルコトヲ必要ト

四

七九一

○煙草ノ耕作權ハ政府ヨリ其許可ヲ受ケタル者自身若クハ相續人或ハ其

承繼ニ付キ特ニ政府ノ許可ヲ得タル者ニ非サレハ之ヲ有セサルモノト
 ス從テ許可ヲ受ケサル者カ煙草ヲ耕作スルニ於テハ縱令耕作權者ノ許
 諾ヲ得タリトスルモ煙草專賣法第四十一條ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス
 ○煙草專賣法第四十一條ノ所謂煙草ニハ商品ニ非サルモノヲモ包含ス
 ○煙草ハ其種類如何ヲ問ハス政府ノ命令又ハ許可ヲ受クルニ非サレハ之
 ヲ輸入スルヲ得ス從テ外國ヨリ渡來シタル旅客カ自用煙草ヲ携帶上陸
 セントスルトキハ政府ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

○煙草專賣法第三十四條ニ所謂所持トハ自己ノ爲メニスルト他人ノ爲メ
 ニスルトヲ論セス同條所定ノ物件ヲ自己ノ監督内ニ置クノ義ナリ

○煙草販賣ノ準備(煙草專賣法第四十九條)ハ其販賣前ニ在テハ犯罪行為
 トシテ獨立ノ存在ヲ有スルモ既ニ販賣ヲ爲シタル以上ハ該行為ヲ包括
 的ニ觀察シ其全部ニ對シテ販賣罪ノ刑ヲ適用セサルヘカラス

○煙草元賣捌人ト煙草小賣人トノ間ニハ法令上劃然タル區別アリ煙草小
 賣人ハ其同業者タル小賣人及ヒ煙草元賣捌人ニ對シテハ煙草賣捌人ニ
 非サルト同時ニ煙草元賣捌人ハ消費者ニ對シテハ煙草賣捌人ニ非ス
 (同法)

煙草元賣捌人ト煙草小賣人トハ各販路ノ區域ニ法律上ノ制限アリテ煙草元賣捌人ハ煙草小賣

四一	四二	四三	四四
一〇九	一〇七	一〇七	一〇九

人ヲ兼業スルコトヲ得ス從テ煙草元賣捌人ハ兼業者ニ對シテハ煙草賣捌人ニ非ス又煙草小賣
 人ハ其同業者タル小賣人ニ對シテハ煙草賣捌人ニ非ス

○零細ナル反法行為ハ犯人ニ危險性アリト認ムヘキ特殊ノ情況ノ下ニ決
 行セラレタルモノニ非サル限リ共同生活上ノ觀念ニ於テ刑罰ノ制裁ヲ
 加フヘキ法益ノ侵害ト認メサル以上ハ犯罪ヲ構成スルコトナシ

○葉煙草ヲ竊取シタル犯人カ其贓物ヲ處分シタルトキハ後ノ處分行為ハ
 前ノ竊取ニ因リ既ニ領得セシ目的物ニ對シテ横領ノ目的ヲ實行シタル
 ニ過キサレハ竊盜罪ノ外別ニ何等ノ罪名ニモ觸ルヘキモノニ非ス

○政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡スル行為ト葉煙草ノ竊取行為トハ
 各犯罪ノ性質上互ニ手段タリ若クハ結果タル關係ヲ有セス從テ其竊取
 行為カ讓渡行為ニ對シテ具體的ニ手段タリ又ハ結果タル關係アリトス
 ルモ刑法第五十四條第一項後段ノ規定ニ依リ一箇ノ牽連犯ヲ以テ處斷
 スヘキモノニ非ス

○煙草專賣法第六十一條ニ據ル追徵處分ハ其犯者アル場合ニハ其全體ヨ
 リ共同ノ關係ニ於テ之カ讓渡金ノ全部ヲ追徵スヘキモノトス

○官製刻煙草又ハ政府ノ證票ヲ附シタル民製刻煙草ヲ改装シ民製煙草ニ
 貼附シアリタル政府ノ證票ヲ剝取り之ニ貼附シテ販賣シタル所爲ハ其

三	四	四	四	三
一七〇	一七六	一七六	一六〇	五八五

葉煙草專賣法

一一九六

成規ニ違ヒ保證ヲ缺ク點ニ於テ無證票ト同一ニ看做スヘキモノナルヲ以テ政府ノ證票ヲ附セサル製造煙草ヲ讓渡シタル罪ヲ構成スルモノトス

葉煙草專賣法(明治三十七年法律第十四)

(參照)

煙草製造營業ノ許可ハ各營業者ニ對シ與フルモノニシテ營業者死亡シタルトキハ其相續人ト雖モ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ繼承シ得ヘキ法律ノ規定ナシ
煙草製造人ハ葉煙草專賣法(第十九條ノ五)ニ依リ毎年其免許ヲ受ケヘキモノトス從テ無免許ニテ數年度製造シタルトキハ其年度毎ニ別罪ヲ構成ス
煙草ノ製造(葉煙草專賣法第十九條ノ五)トハ葉煙草ニ加工シテ製造スルモノノミノ謂ニ非スシテ刻煙草粉煙草等ヲ以テ紙卷煙草ヲ製造スルモノヲモ包含ス
葉煙草專賣法第二十一條第一項ニ「葉煙草ノ讓渡ヲ受ケタルトキ云々」トアル其讓渡ナル語辭ハ廣ク賣買交換其他所有權ヲ移轉スヘキ方法ヲ指稱シタルモノトス從テ若シ營利ノ目的ヲ以テ葉煙草ヲ買受ケタル者ヲ處罰スヘキ特別ノ規定ナカランニハ該犯人ニ對シテモ同條項ノ規定ヲ適用スヘキモノナリト雖モ同法第二十一條ノ二ニ該犯人ヲ處罰スヘキ特別ノ規定アル以上ハ該犯人ニ對シテハ第二十一條第一項ノ規定ハ之ヲ適用スルヲ得サルモノトス
葉煙草專賣法第三條ニ依リ葉煙草ヲ乾燥シ又ハ之ヲ政府ニ納付スルハ皆葉煙草耕作人ノ業務ニ屬ス故ニ若シ其間ニ於テ代理人家族同居者又ハ雇人中之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費シタル者ア

四三 一七〇

三四 五三

三四 一〇七

三四 一〇六

三六 一三五

ルトキハ耕作人ハ其責罰ヲ免ルルコトヲ得ス

葉煙草專賣法違犯事件ニ關スル法律

施行細則(明治三十三年勅令第五十三號ニ依リ失效)

(參照)

官吏公吏ノ作成スヘキ書類ト雖モ特別法ノ規定アル場合ニ於テハ其特別法ニ依テ作成スヘキモノニシテ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ則ルヘキモノニ非ス

煙草稅則(明治二十九年法律第三十五)

(參照)

煙草製造人ニ非ス又其雇人ニ非サル者ハ縱令製造人ノ依頼ヲ受クルモ煙草製造ヲ爲スコトヲ得ス
犯則製造ノ所爲半期内ニ止マルトキハ之ニ科スヘキ罰金ハ製造營業稅半今年分ノ三倍ナリ帳簿ニ虛偽ノ記載ヲ爲スモ其目的脫稅ニ在ラサル者又ハ元來帳簿ニ記載スル義務ナキ者ハ煙草稅則第二十五條ノ制裁ヲ受ケヘキニ非ス
稅則ニ違犯シテ製造シタル煙草及ヒ其用ニ供シタル器械ハ犯人ノ所有ニ係ルトキニ非サレハ沒收スルコトヲ得ス

鹽專賣法

葉煙草專賣法違犯事件ニ關スル法律施行細則 煙草稅則 鹽專賣法 一一九七

三七 一三七

三三 一四

二四 一五

二四 一五

二四 一五

據ルヘキモノニ非ス

○收稅官吏ハ犯則事件ノ調査ヲ終リタル後證憑湮滅ノ虞アルトキハ直ニ之ヲ告發スルノ職權ヲ有ス而シテ證憑湮滅ノ虞アリヤ否ヤハ當時ノ情況ニ徴シ當該官吏ノ査定スヘキモノトス

○間接國稅犯則者處分法第六條ノ臨檢ニ際シ云トアルハ臨檢ノ場所ニ於テノミ犯則者及ヒ證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ得ルノ主旨ニ非スシテ臨檢ノ場所以外ニ於テモ臨檢ノ處分ニ引續キ有效ニ訊問ヲ爲スコトヲ得ルノ主旨ナリトス

(同主旨)

間稅官吏ハ臨檢ノ後其場所以外ニ於テモ必要ニ應シ犯則者及ヒ證人ヲ尋問スルコトヲ得

○收稅官吏カ非現行犯ノ場合ニ於テ日没後ニ至ルマテ臨檢搜索差押等ノ處分ヲ爲スハ間接國稅犯則者處分法第八條ニ違背スル行爲ナリトス從テ其處分ニ基キ作成シタル顛末書ハ無効ナリ

(同主旨)

收稅官吏ハ現行犯ノ場合ヲ除クノ外日没ヨリ日出マテノ間ニ於テ臨檢搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得ス(間接國稅犯則者處分法第八條)從テ此規定ニ背キテ爲シタル處分ニ基キ作成シタル調査顛末書ハ無効ナリトス

○裁判所ハ稅務署長カ犯則者ニ通告シタル罰金額ニ拘束セララルモノニ

三三
五

三四
九
三

三五
四
一七六

三三
九
一九

三六
三三一

三五
八
一〇八

非ス從テ其罰金額ヨリ重キ罰金ヲ科スルモ違法ニ非ス

○間接國稅犯則者處分法第三條ハ犯則者及ヒ其以外ノ人ニ對スル收稅吏ノ尋問ニ付キ何等ノ制限條件ヲ設クルコトナシ從テ其尋問ハ一ニ犯罪搜查ノ權アル收稅吏ノ機宜ノ處分ニ任シタルモノトス

○間接國稅犯則者ニ對スル告發ハ收稅官吏カ間接國稅犯則者處分法ノ規定ニ從ヒ爲スヘキモノニシテ刑事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキ限ニ在ラス而シテ同法ニハ告發書ニ其作成ノ場所ヲ記載スヘキコトヲ命セサルヲ以テ其記載ナキモ不法ニ非ス

○收稅官吏ノ作成スル書類ニ付テハ間接國稅犯則者處分法第十條ニ其作成ニ關スル特別ノ規定アリテ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ作成スヘキモノニ非ス而シテ右處分法第十條ニハ所屬官署ノ印ヲ押捺スヘキ旨ノ規定ナキヲ以テ其押捺ナキモ無効ニ非ス

○稅務屬カ酒造稅法違反事件ヲ調査スル爲メ參考人ヲ尋問スル場合ニ於テハ法定ノ立會人ヲシテ立會セシムヘキモノニ非ス

(同主旨)

間稅官吏カ犯罪者本人其他ノ者ヲ訊問スルニハ刑事訴訟法ニ據ルヘキモノニ非スシテ間接國稅犯則者處分法第六條ニ據ルヘキモノトス而シテ同條ニ據ルハ訊問ニ立會人ヲ要セス

三六
五五九

三六
二二七

三六
二五〇

三六
一五二六

三七
五二〇

三三
九
九三

○間接國稅犯則者處分法第十條ニハ顛末書ヲ關係人ニ示シタルコトヲ記載スヘキ旨ノ規定ナケレハ縱令顛末書中ニ其旨ノ記載ナキモ此一事ヲ以テ收稅吏カ該手續ヲ行ハサリシモノト推定スルヲ得ス

○間接國稅犯則者處分法中收稅官吏ノ行動ニ立會人ヲ要スルハ其第六條ノ搜索ヲ行フ場合ニ限ルモノトス從テ收稅官吏カ立會人ナクシテ犯則嫌疑者ヲ尋問スルモ違法ニ非ス

○收稅官吏カ間接國稅犯則者處分法第十三條但書ノ事由アリトシテ告發ヲ爲シタル場合ニ其書面上右ノ規定ニ依據セシモノナルコトヲ見ルニ足ルヘキトキハ其告發ハ有效ナリトス而シテ該官吏ノ認定シタル事由ハ必スシモ一一之ヲ明示スルノ要ナシ

○間接國稅犯則者處分法第二條ハ包括的ニ收稅吏ノ搜索權ヲ認メ搜索ノ方法ニ付キ何等ノ制限ヲ付セサレハ收稅吏ハ家宅内ノ或場所ナルト其住居人ノ身體タルトフ間ハス藏匿セラレタル證憑物件ノ所在ニ就テ搜索ヲ爲シ得ヘキモノトス

○明治三十七年法律第十一號ノ實施以前ト雖モ間接國稅犯則者處分法ニ依リ稅務管理局長ノ行フヘキ職權ハ同三十五年勅令第二百五十五號ニ從ヒ稅務署長ニ付與シタルカ故ニ稅務署長モ亦犯則事件ニ付キ告

發書ヲ作成スルノ權能ヲ有シタルモノトス

(同三三)

間接國稅犯則者處分法ニ依リ稅務管理局長ノ行フヘキ職權ハ明治三十五年勅令第二百五十五號ニ從ヒ稅務署長ニ付與シタルカ故ニ對シテ爲シタル通告手續ハ有效ナリ

明治三十七年法律第十一號實施以前ト雖モ間接國稅犯則者處分法ニ依リ稅務管理局長ノ行フヘキ職權ハ同三十五年勅令第二百五十五號ヲ以テ之ヲ稅務署長ニ與ヘ犯則事件ニ付キ通告告發等ヲ爲スコトヲ許シタルハ稅務署長モ亦通告書ヲ作成スルノ權限ヲ有シタルモノトス

○收稅吏カ間接國稅ニ關スル犯則事件ヲ發見シタルトキハ其職務執行ノ區域如何ヲ顧ミルコトナク間接國稅犯則者處分法第十一條ニ從ヒ直ニ證憑ヲ蒐集シ第十三條ノ手續ヲ爲シ得ルモノトス

○收稅官吏ハ現行犯ノ場合ヲ除ク外日没後ニ於テハ臨檢搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得ス而シテ此禁令ハ臨檢搜索等ヲ受クル者ヨリ何等ノ異議ヲ申立テサル場合ト雖モ亦之ヲ適用スヘキモノトス

○收稅官吏カ臨檢ノ場所ニ於テ犯則者ヲ訊問スルハ臨檢ノ目的ヲ達スルノ手段ニシテ該處分ト離ルヘカラサル關係ヲ有ス從テ臨檢處分ニシテ不法ナル以上ハ其訊問手續モ亦不法ナリトス

○間接國稅ニ關スル犯則者アルトキハ收稅官吏ハ證憑ヲ集取スルノ職權

三元	三元	三元	三七	三七	三元
1041	1041	897	1121	915	860

三七	三七	三七	三七	三七
1121	1121	1594	915	

ヲ有ス從テ其犯則物件ト思料スルモノニ付キ鑑定ヲ爲サシムルハ違法ニ非ス

四〇

二九三

○酒造稅ニ關スル犯則事件ノ證憑ハ其事件發見地ヲ管轄スル稅務監督局ノ收稅官吏又ハ同地ヲ管轄スル稅務署ノ收稅官吏ニ限リ之ヲ集取スヘキ權限ヲ有スルモノトス

四〇

八七六

○間接國稅犯則者處分法第十條ハ顛末書ヲ作リタル收稅官吏ハ之ニ署名捺印スヘキコトヲ規定スレトモ其方式ニ違背スルトキハ書類ヲ無効ト爲ス旨ノ制裁ヲ付セス故ニ苟モ顛末書ニシテ眞正ニ作成セラレタルコトヲ認メ得ル以上ハ捺印ヲ缺如スルノ一事ヲ以テ直ニ無効ナリト云フヲ得ス

四〇

二四八

○間接國稅犯則者處分法ニ依リ犯則者ニ對シテ罰金ノ通知ヲ爲シ其通告ニ應セサルトキ告發ヲ爲スコトハ稅法違犯罪ノ構成要件ニ非スシテ所謂訴訟條件ニ屬スルモノトス

四一

一〇七

○間接國稅犯則者處分法第十四條ニ「犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其理由ヲ明示シ」云云トアルハ心證ヲ得タル所以ノ理由ヲ明示スヘシトノ義ニ非スシテ罰金科料等ヲ納付スヘキ所以ノ理由即チ犯則事實竝ニ其該當スル法條ヲ明示シテ通告ヲ爲スヘシトノ謂ナリトス

四一

五八七

○間接國稅犯則者處分法第十條ハ立會人カ顛末書ニ署名捺印スルコト能ハサル場合ニハ收稅官吏ニ於テ其旨ヲ附記スヘキコトヲ規定スレトモ此方式ノ違背ニ對シテ無効ノ制裁ヲ付スルコトナシ故ニ甲立會人ノ名下ニ其印願ノ押捺アリテ同人ノ立會ヒタルコト明確ナル以上ハ縱令乙立會人ニ於テ甲者ノ氏名ヲ代書シ其旨ヲ附記シタリトスルモ之カ爲メニ該顛末書ヲ目シテ無効ナリト云フヲ得ス

四二

七五

○間接國稅犯則者處分法第十七條ニ所謂「通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以内」トハ犯則者カ通告ヲ受ケタル當日ヨリ起算シテ七日以内ノ謂ナリトス

四二

七六

○收稅官吏カ犯則者ノ尋問及ヒ應答ノ顛末ヲ記載スルニハ逐次之ヲ爲スヘキヤ否ヤ法規上何等明示スル所ナケレハ長時間ニ涉リタル尋問應答ヲ其終了後一括シテ顛末書ニ記載スルモ違法ニ非ス

四二

一七八

○酒造稅法違犯者カ間接國稅犯則者處分法第十四條所定ノ通告ノ旨趣ヲ履行スル資力アリヤ否ヤヲ認定スルハ一ニ當該官吏ノ職權ニ屬ス而シテ當該官吏カ犯則者ニ於テ該資力ヲ有セサル旨ノ認定ヲ爲シタルトキハ其有無ニ付キ適當ノ調査ヲ遂ケタルモノト認ムルヲ相當トス

四二

二〇一一

(參照)

間接國稅犯則者處分法施行規則

一一〇六

收税屬臨檢ノ際犯則者ヲ發見シタル場合ニ在リテハ間接國稅犯則者處分法第六條ノ法則ニ基
 キ犯則者及ヒ證人ヲ訊問スルヲ得而シテ同法ハ其訊問方法ニ制限ヲ設クルコトナシ
 間稅官吏ハ間接國稅犯則者處分法第六條ニ基キ證人ヲ訊問スルノ職權ヲ有ス
 收稅官吏九稅則違犯事件ニ付キ調書ヲ作成スルニ該リテハ間接國稅犯則者處分法ニ依ルヘキ
 モノニシテ刑事訴訟法ノ規定ニ從フヘキモノニ非ス
 間稅官吏カ臨檢ノ際ニ非スシテ被告人ヲ訊問シ調書ヲ作成スルハ不法ナリ
 間稅署長カ間接國稅犯則者處分法第十四條第一項第十五條ニ該當スル者ト認ムルトキハ同法
 第十一條ニ定メタル手續ヲ履踐セスシテ直ニ告發ヲ爲スコトヲ得
 間稅官吏カ間接國稅犯則者ニ對シ告發ヲ爲スニハ間接國稅犯則者處分法第十一條ノ通告ヲ爲
 シタル後犯則者カ其通告ノ旨ヲ履行セザルトキニ限ル
 間接國稅犯則者處分法第十四條ニ規定シタル場合ノ一ニ該當スルヤ否ヤヲ識別シテ同法第十
 一條ノ通告ヲ爲サス直ニ犯則事件ヲ告發スルト否トヲ定ムルハ間稅官吏ノ職權ニ屬ス從テ同
 官吏カ右通告ヲ爲サス直ニ之ヲ告發シタル以上ハ同法第十四條ニ規定シタル場合ノ一ニ該當
 スルモノト認メタルコトハ自ラ明カナリトス
 間接國稅犯則者處分法第十四條但書ノ場合ニ於テ告發ヲ爲スノ權限ヲ有スル者ハ稅務管理局
 長若クハ稅務署長ニ限ル從テ此場合ニ於テ稅務屬ノ爲シタル告發ハ無效ナリ

間接國稅犯則者處分法施行規則

○間接國稅犯則者處分法施行規則第十二條ニハ「犯則事件ノ調査及ヒ處

二九	二九	三三	三五	三六	三六
七六	七六	一四	六	六	六
八一	八一	四	二〇〇	七五	一五四九

分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ云云」トノ規定アルモ其方式ノ違
 背ニ對シ無効ノ制裁ヲ付セザレハ縱令該書類ニ契印ヲ缺クモ真正ニ作
 成セラレタルモノハ之ヲ採用スルニ於テ何等ノ不法ナシ

(同法第)

間接國稅犯則者處分法施行規則第十二條ニハ「犯則事件ノ調査及ヒ處分ニ關スル書類ニハ每
 葉契印スヘシ」トノ規定アルモ無効ノ制裁ナキヲ以テ右規定ニ違背シタリトテ其書類ハ當然
 無効ナリト云フヲ得ス

○酒造稅法違犯事件ノ被告カ未成年者ナルモ親權者ノ許可ヲ受ケ獨立シ
 テ酒造業ヲ營ム以上ハ其營業ニ付キ成年者ト同一ノ能力ヲ有シ犯則事
 件ノ通告ノ如キモ自ラ之ヲ受ケテ相當ノ處置ヲ爲シ得ルモノトス從テ
 該通告書ハ被告本人ニ送達スヘキモノニシテ親權者ニ之ヲ送達スルモ
 其效ナキハ當然ナリ

○如上ノ場合ニ於テ親權者カ被告タル未成年ノ子ニ代リテ酒造業ヲ營ミ
 居ルトキハ犯則事件ノ通告ノ如キモ親權者之ヲ受ケテ相當ノ處置ヲ爲
 スコトヲ得故ニ該通告書ハ之ヲ親權者ニ送達スヘキモノトス

○現行間接國稅犯則者處分法施行規則ニ於テ犯則事件ノ通告期間ヲ翌日
 ヨリ起算スヘキ旨ノ規定ヲ設ケザルハ即チ之ヲ設ケタル舊施行細則ヲ

四〇	四〇	三六	三六
七五五	七五五	二五二	四六

間接國稅犯則者處分法施行規則

一一〇七

改廢シ以テ即日ヨリ起算スルノ旨趣ニ出ツルモノトス

郵便法

○郵便法第二條ノ罪ハ信書ノ送達ヲ以テ營業ト爲シタルニ依リ成立ス而シテ其送達賃金ヲ費消シタル事實ハ罪トナルヘキ事實ニ非サルヲ以テ之ヲ認定シタル證據ヲ明示スルヲ要セス

○郵便電信局ノ通信事務員ハ雇員ニシテ官吏ニ非ス從テ通信事務員ニシテ其監守ノ責アル郵便物ヲ竊取シタル所爲ハ郵便法第五十一條ニ依リ刑法竊盜ノ例ニ照シ一等ヲ加ヘ處斷スヘキモノニシテ監守盜ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

○郵便法第五十二條ノ郵便物ヲ受取人ニ非サル者ニ交付シ又ハ情ヲ知テ之ヲ受取リタル行爲ハ其行爲カ通信阻害ノ目的ニ出テタル場合ニ非サレハ之ヲ罰セサルノ法意ナリトス

○郵便法第二條ノ信書トハ通信文ヲ包含スル文書ヲ指稱ス而シテ通信トハ特定ノ人ニ對シ自己ノ意思ヲ表示シ若クハ或事實ヲ通知スルノ謂ナレハ文書ニシテ特定ノ人ニ對シ發信者ノ意思ヲ表示シ又ハ事實ヲ通知スルモノナル以上ハ同法ノ信書ニ該當ス

四〇	八二七
三五	三
三五	五二
三六	二四六
三七	二〇一

○郵便法第二條ニ所謂運送營業者トハ公衆ノ委託ヲ受ケ物品ヲ一ノ場所ヨリ他ノ場所ニ運送スルヲ以テ日常ノ業務ト爲ス者ヲ指稱シ其運送ノ目的タル物品ノ種類運送區域ノ大小又ハ運送機關ノ有無如何ハ之ヲ問フノ要ナキモノトス

○信書トハ特定ノ人ニ對シテ自己ノ意思ノ傳達ヲ媒介スヘキ文書ヲ總稱シ封緘ノ有無ハ問フ所ニ非ス從テ封緘ヲ施シタル書狀ハ勿論開封ノ書狀及ヒ郵便葉書モ亦之ニ包含セルモノトス

(同主旨)

郵便法第二條ニ所謂信書トハ通信文ヲ記述シタル書面ノ義ナルヲ以テ苟モ差出人ヨリ名宛人ニ對シ意思ノ傳達ヲ媒介スヘキ文言ヲ記載セル書面ハ其何タルヲ論セス總テ之ヲ包含スルモノトス而シテ其書面ニ封皮ヲ施スト否ト將タ開封ノモノナルト否トハ信書タル性質ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

(参照)

郵便條例ニ所謂郵便物隱藏ノ所爲ニハ竊取ノ意義ヲ包含セス從テ之ヲ開封シ封中ノ印形又ハ貯金拂戻證書ヲ隱藏スルモ別ニ竊盜罪ヲ構成セス
郵便稅ヲ免ルル目的ヲ以テ使用濟ノ郵便端書ヲ使用シタル所爲ハ刑法第九十九條ノ犯罪ニ非スシテ郵便條例第二三十七條ノ犯罪ナリ
郵便條例第二三十四條ニ所謂「之ヲ受取人ニ非サル者ニ交付シ」トアルハ受取人ニ交付セザル意思ヲ以テ第三者ニ交付シタル場合ヲ云フ

三七	二三八一
四〇	一〇〇一
三七	二三八一
二八	七〇
三〇	一五
三一	一七

郵便貯金法 電信法

一一一〇

郵便集配人ニシテ郵便物ヲ自ラ配達セス他人ニ委託シテ送致シタル所爲ハ法律上罪ト爲ラス
郵便條例第二百三十四條ニ所謂「己レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ云々」トアルハ信書ノ秘密ヲ
侵ス意思ヲ以テ開封シタル場合ヲ謂フニ止マリ竊盜ノ目的ヲ遂行スル意思ヲ以テ開封シタル
場合ヲ包含セス

三一

一

一七

三二

二

一五

郵便貯金法

○郵便局長ハ郵便貯金預ケ人ノ眞僞ヲ調査スヘキ職責ヲ有ス故ニ虚構ノ
預ケ人名義ヲ以テ貯金ノ預入ヲ爲サントスル者アル場合ニ郵便局長ニ
於テ其虚構ナルコトヲ知ルトキハ預入ヲ拒ムヘキモノトス

四二

六九

電信法

○自己ノ名義ヲ以テスルト否トヲ問ハス苟モ自己若クハ他人ニ利益ヲ與
ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル爲メ虚僞ノ電報ヲ發シタル以上ハ電信法第
三十三條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

四〇

三〇

○電信法第三十三條ハ單ニ電報ノ内容カ虚僞ナル場合ニ適用セラルヘキ
モノトス故ニ警察署ノ名義ヲ冒シテ虚僞ノ文書ヲ賴信紙ニ記入シ之ヲ
行使シタルカ如キ場合ニハ同條ヲ適用スヘキモノニ非ス

四二

三九

電報規則

○電報規則第二十三條ニ依リ賴信紙ニ發信人ノ氏名ヲ表示シタルトキハ
何レノ方法ヲ執ルモ其何人ナルヤヲ受信人ニ傳達スルノ效果ハ同一ニ
シテ均シク發信人ノ名義ヲ表示シ通信文ノ一部ヲ構成スルモノトス

四三

七

鐵道營業法

○線路彎曲シテ遠望ヲ妨クル踏切ニシテ往來頻繁而モ踏切番人ノ出務シ
居ラサル場合ニ在リテハ汽車機關手ハ衝突等公衆ノ危害ヲ避クルカ爲
メ注意汽笛ヲ鳴ラシ且危害ヲ避クル注意ヲ爲シ容易ニ停車シ得ヘキ準
備ヲ以テ運轉スヘキハ其職責ナリトス從テ苟モ此職責ヲ盡ササルニ於
テハ鐵道營業法第二十五條ノ制裁ヲ免レズ

三六

二三九

○鐵道營業法第二十五條ハ旅客若クハ公衆ニ危害ヲ生スヘキ虞アル行爲
ヲ爲シタル者ヲ處罰スルモノニシテ人ヲ癡疾ニ致シタルカ如ク既ニ危
害ヲ生セシメタル行爲ハ刑法第三百十八條ノ制裁ヲ受クヘキモノトス
○有效ノ乗車券ナクシテ人ヲ乗車セシメタル場合ニ乗車シタル者カ其情
ヲ知ラサルトキハ乗車セシメタル者ニ於テ直接責任ヲ負フヘキモノト

三七

六九

○鐵道院書記カ驛長ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行ヲ加ヘ其執行ヲ妨害シタル所爲ハ鐵道營業法第三十八條ニ該當スルモノトス

四二

一五八〇

船舶法

四三

一四四九

○日本ノ船舶ハ日本臣民ノミ所有シ得ヘク外國人ハ日本船舶ノ單獨ノ所有者タルコト能ハサルハ勿論日本船舶ノ共有者トシテ其持分ヲモ所有スルコト能ハス(船舶法第一條)從テ日本臣民カ其所有スル船舶ヲ日本ノ船舶トシテ外國人ト共有スヘキ契約ヲ爲スモ其契約ハ國法上日本船舶タルノ資格ナキ内外人ノ共有船舶ヲ日本船舶タラシムルノ效ヲ生セサルノミナラス公益上ノ理由ニ基ク國法ノ禁令ヲ回避スルヲ目的トスル不法ノモノナレハ所謂公ノ秩序ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行爲ニ該當シ全然無効ニシテ何等ノ效力ヲ生セサルモノトス

三

五二五

船員法

○船員法第十九條ハ船長ハ人命船舶等ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客船員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ船舶ヲ去ルコト

ヲ禁シタルモノトス從テ立去ルノ意思アリタル以上ハ船客ヲ見捨ツルノ意思ノ有無ヲ問ハス同法條ノ違背タルヲ免レス
○船員カ沿岸ノ航海ニ於テ專ラ豫定ノ方位ニノミ著眼シ陸地ノ遠近ニ注意セザリシ爲メ其船舶ヲ轉覆シ人ヲ死ニ致シタルトキハ船員法第七十三條ノ犯罪ヲ構成ス

三五

五

五二

三七

一五七三

國際法

○一千八百九十四年ノ萬國國際法學會ノ決議ハ國際法上未ダ一般ノ慣例トシテ認メラレ各國ヲシテ之ヲ遵守セシムヘキ效力アルモノニ非ス
○國際條約ハ其締約國相互間ニ於テノミ之ヲ遵守スヘキ義務ヲ生スルモノトス從テ其條約中ニ萬國國際法學會ノ決議ノ内容ヲ承認シタル所アリトスルモ此一事ヲ以テ直ニ締約國外ノ別國トノ國際關係ニ付テモ亦其決議ノ旨趣ヲ遵守スヘキコトヲ承認シタルモノト云フヲ得ス

四

一七

四

一七

移民保護法

○移民保護法違反事件ニ付キ移民株式會社ノ社長ヲ處罰スルニ當リ其社長ノ資格ハ業務擔當社員ニ相當スルヤ又ハ取締役ニ相當スルヤ否ノ事

スル者ノ爲メニ渡航ノ便宜ヲ與フル一切ノ營業的行動ヲ指稱シ其渡航ノ公然タルト否トヲ區別セス從テ密航者ノ爲メニ渡航ノ周旋ヲ爲シタル所爲ハ同條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

○行政廳ノ許可ヲ受ケスシテ移民ノ募集又ハ其渡航ノ周旋ヲ營業ト爲シタル所爲ハ移民保護法第二十三條ノ犯罪ヲ構成ス而シテ犯人ノ募集又ハ周旋シタル渡航者ノ目的カ移民ヲ許ササル外國ニ渡航セントスルニ在ルヤ否ヤハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホサス

(同主旨)

移民保護法第二十三條ノ犯罪ハ移民取扱人ノ行爲ヲ爲シタルコトト此行爲ヲ爲スニ付キ行政廳ノ許可ヲ受ケサリシコトトノ二條件ヲ具備スルニ因リテ成立スルモノトス而シテ犯人ノ募集シタル渡航者ノ目的カ何國ニ渡航セントスルニ在ルヤハ犯罪ノ成立ニ何等ノ關係ヲ有セス

移民保護法施行細則

○移民保護法施行細則第一條ハ移民保護法第一條ニ掲クル労働ノ種類ヲ限定シタルモノトス故ニ其以外ノ労働ニ從事スルノ目的ヲ以テ外國ニ渡航スル者ハ同法ノ所謂移民ニ非ス

(參照)

移民保護法施行細則第一條第二號中ニハ雜貨店手傳ヲ包含スルモノトス

外國旅券規則

(參照)

變造ノ旅券タル事情ヲ各ケスシテ之ヲ他人ニ交付シタルトキハ其交付ノ時ニ於テ變造文書行使罪ヲ構成ス而シテ交付ヲ受ケタル者方更ニ之ヲ巡査ニ提出シ使用シタルトキハ交付者ハ外國旅券規則第十六條ノ制裁ヲ受ケヘキモノトス

醫師法

- 醫師ヲ常業トスルノ決意アルトキハ必スシモ數人ニ對シテ醫術ヲ行ヒ又ハ一人ニ對シテ數回醫術ヲ行フコトヲ要セス單ニ一人ニ對シ一回之ヲ行ヒタル場合ニ於テモ尙ホ醫業ヲ爲シタルモノトス
- 醫師法第十一條ハ營業ノ目的ヲ以テ免許ヲ受ケス擅ニ醫術ヲ行ヒタル者ヲ處罰スルノ法意ナリ
- 醫師法第五條ハ醫師自ラ治療セル患者タリシト否トヲ問ハス其死體ヲ檢案セスシテ檢案書ヲ交付スルコトヲ禁シタルモノトス
- 醫師ニシテ自己ノ業務上其經歷ヲ叙述シタル廣告ヲ爲ストキハ醫師法第七條ノ犯罪ヲ構成ス而シテ其廣告ノ目的如何ハ本罪ノ成立ニ何等ノ

外國旅券規則 醫師法

四〇	三九	四一	四〇
六〇	六五	二六三	六〇

三六	三六	四〇	四二
六九	六九	一〇七	三〇

影響ナシ

○醫業トハ疾病ヲ診察シ之ニ依リテ生活資料ヲ得ル行爲ヲ反覆スルノ謂ナリトス故ニ其業務ニ對シテ現實ニ報酬ヲ受ケ又ハ之ヲ約セサルモ醫業ヲ爲シタリト云フヲ妨ケス

齒科醫師法

○齒科ハ醫學上口腔外科ノ一部分ニシテ眼科耳鼻咽喉科ト同シク醫科ノ範圍ニ屬スルモノトス

○齒科醫師ノ免許ヲ受ケタル者ハ唯齒科醫タルニ止マリ普通ノ醫業ヲ爲スコトヲ得サルモ之ニ反シテ普通醫師ノ免許ヲ有スル者ハ當然齒科醫業ヲ爲スコトヲ得

○人ノ依頼ニ應ジ護謨ヲ以テ齒牙脱落部ノ型ヲ造リ之ニ義齒ヲ簞込ミ入齒ヲ爲スカ如キハ其性質上醫師ノ免許ヲ受ケタル者ニ限り爲シ得ヘキ醫術上ノ行爲ナルヲ以テ醫師ニ非サル以上ハ縱令入齒細工職ノ許可ヲ受ケタル者ト雖モ之ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

賣藥規則

四	三	四	四	四	四
七	一〇五	七九	七九	七九	七九

○賣藥規則ニ違犯シタル製藥没入ノ判決ハ單ニ其現存高ヲ明示スルヲ以テ足レリトシ必スシモ製造高ヲ確定スルヲ要セス

○賣藥ノ效能書及ヒ包裝紙ハ賣藥規則ノ所謂賣藥ニ包含セス

○賣藥規則第二十四條ノ犯罪ハ他人ノ藥劑其物ノミヲ贗造スルニ依リテ成立ス從テ贗造ノ賣藥ニ附シタル效能書及ヒ其包裝紙ニシテ偽造ニ係リ他ノ法律ニ觸ルルトキハ其所爲ニ對シ別ニ刑律ヲ適用スルヲ當然トス

○藥劑ヲ調製シテ之ヲ一人ニノミ販賣シ未タ廣ク公衆ニ販賣スルニ至ラサル場合ト雖モ其目的公衆ヲシテ醫師ノ指揮ニ依ラス疾病治療ノ爲メ之ヲ使用セシムルニ在ル以上ハ該藥劑ノ豫メ調製シ置キタルモノナルト否トニ論ナク賣藥營業ヲ爲シタルモノニ外ナラス

(參照)

藥種商業者單純ノ藥種ヲ出賣シ又ハ出賣セシムルモ配伍調製ヲ爲サス又分量ヲ定メ效能書ヲ附セサルトキハ縱令小瓶又ハ小包ニ分チテ賣却スルモ賣藥ノ販賣ニ非ス
免許ヲ受ケタル賣藥ニ劑藥ヲ私ニ配伍シタル所爲ハ賣藥規則第二十二條ニ所謂免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味ヲ改更シタルモノナルヲ以テ同條ニ依リ處斷スヘキ筈ナルニ原裁判所ハ之ヲ毒藥ヲ私ニ賣藥ニ配合シテ販賣シタルモノト斷定シ同則第二十五條ニ依テ罰シタルハ擬律錯誤ナリ

三	三	三	三	三	三
一四六	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七

度量衡法 特許法

一二三二

拘ハラス職務ノ前後ヲ問ハサルヲ以テ其目的刑法ニ於テ罰セサル所爲ヲ罰セントスルニ在ル
モノトス從テ刑法ニ處罰ノ明文アル所爲ニ對シテハ該規定ハ之ヲ適用スヘキモノニ非ス
小學校令施行規則追加第六十三條ノ二ハ金錢其他ノ利益ノ供與カ苟モ小學校教科用圖書ノ審
査又ハ檢定ニ關連スルモノナルニ於テハ其供與ノ時期供與ノ原因如何ニ拘ハラヌ處罰スルノ
旨趣ナリトス
小學校令施行規則第六十三條ノ二ハ小學校教科用圖書ノ審查ニ關スル審査委員ノ制裁ト其採
定ニ關スル府縣知事ノ責罰トヲ規定シタルモノナリ

度量衡法

○度量衡法第八條第三號ニ所謂變造トハ既ニ官ノ檢定ヲ經タル度量衡器
ノ計量ヲ定規ニ反シテ増減スルノ義ナリ

特許法

○特許公報ヲ以テ公示セラレタル事項ハ一應人ノ知了シタルモノト推定
シ得ルニ止マリ世人ハ如何ナル事由存スルモ絶對ニ之カ不知ヲ主張ス
ルコトヲ許ササルモノニ非ス

○特許ノ效力ハ特許權ノ侵害力侵害者ノ故意又ハ過失ニ出テタルヤ否ヤ
ヲ判定スルニ付キ通常裁判所ヲ羈束シ得サルモノトス

三六	二七六
三六	一三六
三六	一八六
四三	一〇七
四三	一五九
四三	一五九

(參照)

特許ハ特許局ノ審決ヲ以テ其無効ヲ宣告セサル限ハ依然存立スヘキモノトス從テ通常裁判所
ハ特許ノ當否及ヒ其效力ノ有無ヲ判斷スルコトヲ得ス
特許法第四十七條ニ「詐欺ノ所爲ヲ以テ云云」トアルハ民法第二十條ニ所謂「詐術ヲ用井タル
トキ」ニ比スレハ一層汎博ナル意義ヲ有シ詐術ヲ用井タル場合ノ外尙ホ人ヲ錯誤ニ陥ラシム
ヘキ偽言ヲ用井タル場合ヲモ包含ス從テ同條ノ犯罪ヲ構成スルニハ必スシモ詐術ヲ用井タル
事實アルコトヲ要セス
特許公報ヲ以テ公示セラレタル事項ハ一應人ノ知了シタルモノト推定シ得ルニ過キサルヲ以
テ事實裁判所ハ被告人ハ其事項ヲ知了セザリシモノト認定スルコトヲ得
特許法第六條ハ特許證主等カ定メタル代理人ハ其權限トシテ特許局ニ對シ爲スヘキ手續又ハ
特許ニ關スル民事訴訟及ヒ告訴ニ付キ本人ヲ代理スル旨ヲ明カニシタルニ過キスシテ同條ノ
代理人ニ非サレハ此等ノ訴訟及ヒ告訴ニ付キ本人ヲ代理シ得サルノ旨趣ニ非ス
詐欺ノ所爲ヲ以テ特許ヲ受ケタル者ハ特許法第四十七條ノ犯罪者ニシテ其犯罪ノ有無ヲ審判
スルハ司法裁判所ノ專權ニ屬シ特許局ノ審決ニ依リテ何等ノ拘束ヲ受クヘキモノニ非ス
特許法第四十五條第一項ニ所謂他人ノ特許品ヲ偽造スルトハ他人ノ特許品ト全然相同シキ物
品ヲ作製シタル場合ハ勿論其作製品ノ或部分ニ於テ特許品ニ比シ多少變更ヲ加ヘタル箇所ノ
存スル場合ヲモ包含セルモノトス

商標法

○他人ノ登錄商標ナルコトヲ知り其承諾ヲ經スシテ同一ノ商標ヲ製造シ

商標法

一二三三

三七	一六九
三七	二二五
三八	四九〇
三九	四
三九	六七
四〇	三四

商標主ノ販賣スル賣藥ト同一ナル贗造賣藥ニ之ヲ使用シタル所爲ハ商標侵害罪ヲ構成ス而シテ被告カ贗造シタル賣藥ニ商標主ノ商品ナルコトヲ表示スルト否トハ本罪ノ成否ニ何等ノ關係ナシ

(參照)

商標法第二條第五號ニハ此法律施行前ヨリ他ニ使用者アル商標ト同一若クハ類似ノモノハ同條本文ニ因リ商標ノ登録ヲ受クルコトヲ得ズトアリ從テ該法律ノ施行(明治三十二年七月一日)以前ニ於テ他ニ使用者アル場合ハ商標ノ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス
商標法第十六條ハ他人ノ登録商標ナルコトヲ知り其承諾ヲ經スシテ製造シタル事實ト其之ヲ交付若クハ販賣シタル事實トノ二箇ノ行爲ヲ具備スルヲ待テ始メテ犯罪ヲ構成スルモノニ非ス從テ苟モ他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ製造シタル者ハ勿論其偽造ノ商標ヲ交付シタル者若クハ之ヲ販賣シタル者ハ皆同條ノ制裁ヲ受クヘキモノトス
商標公報ハ特許局カ商標法第十四條ノ規定ニ從テ登錄商標ニ關スル事項ヲ公示スル爲メ發行スルモノニシテ同法ト相俟テ運用ヲ爲スモノトス從テ商標公報ヲ以テ公示セラレタルモノハ何人ト雖モ之ヲ知了シタルモノト看做スヘキモノトス
商標法第十六條ニ所謂同商品トハ商品ノ名稱同一ナルモノヲ指シタルニ非スシテ商品ノ實質上同一種類ニ屬スルモノノ謂ナリトス
商標ハ特許局ニ於テ法定ノ要件ヲ具備スルヤ否ヤヲ審査シ之ヲ付與シタル以上ハ商標主ハ何人ニ對シテモ其專用權ヲ主張シ得ヘク司法裁判所モ亦商標ニ關スル事件ヲ審判スルニ當リテハ特許局ノ許可シタル所ニ從テ裁判ヲ爲スヘキハ當然ナリ
一旦付與セラレタル商標ハ特許局ニ於テ其無効ヲ宣言セサル限ハ依然存立スヘキモノトス從

四

一〇三七

三五

四

六

三六

二六九

三七

一四六四

三八

五七七

テ司法裁判所ハ其效力ノ有無ニ付キ判斷スルコトヲ得ス

或商品ニ使用センカ爲メ商標ノ登録ヲ受ケタル者ト雖モ其商標ニシテ他人カ該商品ト類別ヲ異ニスル他ノ商品ニ使用スル爲メ登録ヲ受ケタルモノニ類似スルコトヲ知り乍ラ同一ノ商品ニ之ヲ使用スルニ於テハ商標法第十六條ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス

被告人カ民事原告人ノ登録商標ニ類似セル商標ヲ使用スルニ於テハ事實上該商標ヲ模造スルノ意思ナキ場合ト雖モ其商標權ヲ侵害シタルノ責ヲ免レサルモノトス

商標法第十六條ニ所謂同商品トハ其成分ノ幾分ニ付キ異ナル所アリトスルモ主要ノ成分ニ於テ相異ナラサルモノヲ指稱ス

商標法第十八條ハ沒收スヘキ物件ト毀壞セシムヘキ物件トヲ區別シテ之ヲ規定シタルカ故ニ毀壞ノ場合ハ被告人ノ所有權ヲ剝奪スルノ注意ニ非ス

商標法第十六條第二項前段ノ罪ハ他人ノ登録商標ヲ有スル容器包装等ナルコトヲ知り乍ラ之ヲ同商品ニ使用スルニ依リテ成立ス從テ犯人カ商標主ノ販賣スル商品ト全然同一ノモノトシテ自己ノ商品ヲ販賣シ又ハ特ニ商標主ノ商品ナルコトヲ表明シテ之ヲ販賣シタルヤ否ヤハ本罪ノ成立ニ何等ノ關係ヲ有セス

營業者カ他人ノ登録商標ヲ使用シ自己ノ商品ヲ販賣スルニ於テハ需要者ハ其商標ニ著目シ直ニ該商品ヲ以テ商標主ノ商品ナリト認メ之ヲ購買スヘキハ普通ノ狀態ナリトス

營業者カ或商標ヲ使用セントスル場合ニハ先ツ商標公報ニ就キ其商標ハ他人ノ登録ニ係ルヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス而シテ其調査ハ固ヨリ自己ノ營業地ニ於テ之ヲ行フヘキモノトス登錄ヲ受ケタル商標ト雖モ一旦無効ノ審決確定シタル以上ハ其登錄ハ既往將來ニ向テ無効ト爲ルカ故ニ法律ハ一切其商標ノ專用ヲ保護セサルモノトス

三八

五七七

三六

二九三

三元

五

三元

三九九

三元

三九九

三元

六七

三元

七〇

三元

七〇

三元

一〇三三

- 苟モ取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一若クハ類似ノ方法ニ據リ取引ヲ實行シタル以上ハ縱令其賣買取引カ意思表示ノ瑕瑾若クハ意思ノ合致ヲ缺ク爲メ民法上取消シ得ヘキ行爲ト爲リ又ハ全然效力ヲ生セサル場合ト雖モ之ヲ以テ取引ノ所爲ナシト云フヲ得ス
- 苟モ取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ニ類似スル賣建若クハ買建ノ契約ヲ爲シタル以上ハ未タ其履行ヲ結了スルニ至ラサルモ既遂トシテ取引所法第三十二條ヲ適用スヘキモノトス
- 取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一ノ方法ニ依リ賣買取引ヲ爲シタル以上ハ縱令其取引ハ仲買人ニ依テ行ハレタルモノニ非サルモ取引所法違反罪(同法第二十五條)ノ成立ヲ妨ケス
- 賣買取引ノ相手方カ取引所外ニ於テ取引スルノ意思アリタルヤ否ヤハ現ニ取引所外ニ於テ取引ヲ爲シタル者ノ犯罪成否ニ何等ノ影響ヲ及ホサス(同一判例四一年二七五頁)
- 刑法施行前意思ヲ繼續シテ數次ニ取引所法違反ノ所爲(同法第二十五條)ヲ行ヒタルトキハ同法第三十二條及ヒ舊刑法總則ヲ適用シテ之ヲ處斷スヘキモノトス故ニ該犯罪ニ對シテ刑法第五十五條ヲ適用シタル判決ハ不法ナリ

三六	八三
三九	七五
四二	一三〇
四三	一三〇
四三	一三〇

取引所條例(明治二十六年法律第五) 號取引所法ニ依リ廢止

(參照)
取引所條例ニ觸レ過意金ヲ科セラレタルモ個々取引所カ其者ニ對スル一ノ懲戒處分ニ過キサルヲ以テ之カ爲メ一般法律ノ規定スル刑罰ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

米商會所條例(明治二十六年法律第五) 號取引所法ニ依リ廢止

(參照)
米商仲買人ト雖モ普通人ノ資格ヲ以テ他ノ仲買人ニ依賴シ規則ニ遵ヒ賣買取引ヲ爲スハ條例ノ禁スル所ニ非ス
米商仲買人カ賣買本人ノ依賴ニ應シ其帳簿ニ假設ノ名義人ヲ掲ケ本人ノ姓名ヲ記載セサルモ條例違反ニ非ス

國立銀行條例

(參照)
國立銀行ニ於テ使用スル傳票ハ金錢ノ出納ニ關スル證明書ニシテ銀行條例第八十五條ニ所謂證書ニ包含スヘキモノトス
銀行ノ損失ヲ隱蔽センカ爲メ銀行帳簿ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル所爲ニ對シ刑法第二百十條第一項ヲ適用シタル上ハ別ニ國立銀行條例(第八十五條)ヲ適用スルヲ要セス
國立銀行條例第一百條ハ同條例中罰金ヲ以テ處罰スヘキ犯罪又ハ罰金ノ明文ナキ箇條ノ犯罪

二五	四	四
二五	六	一三〇
二九	六	三一
三四	九	三四

取引所條例 米商會所條例 國立銀行條例

ニ適用スヘキ法條ニシテ刑法ニ明文アル犯罪ニ適用スヘキ法條ニ非ス

森林法

○明治四十年法律第四十三號森林法第八十四條第二號ニハ「其他ノ物品」ナル極メテ廣汎ナル文字ヲ用キ其物品ノ種類性質ニ付キ何等ノ制限差別ヲ設ケサレハ森林竊盜ノ贓物タル木材カ犯人ノ加工ノ結果原形ヲ變シ木材以外ノ物品トシテ取引セラルヘキ別物ヲ形成シタルトキハ其所爲ハ同號ノ場合ニ該當スルモノトス而シテ其加工物カ原物ト全然性質ヲ異ニシ原物ヲ認識スルコト能ハサルニ至リタルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシ

○被告ニ對シ森林法第八十四條第一號第六號及ヒ第七號所定ノ加重ノ情態アル森林竊盜ノ起訴アリタル以上ハ公判裁判所之ヲ審理シテ他ノ加重ノ情態アル事實ヲ認ムルモ之ヲ以テ起訴以外ノ事實ヲ審判シタルモノト云フヲ得ス

○國有林ニ在ル末木ノ拂下蒐集ヲ出願シ其許可ヲ受ケタル者カ擅ニ同森林及ヒ其附近ノ立木ヲ伐倒シテ小切丸ト爲シ詐欺ノ手段ヲ用キテ當該官吏ヲ欺キ之ヲ騙取シタル所爲ハ森林竊盜罪ヲ構成ス

三四	九
三四	三
四一	七三
四三	一五二
四三	克

(參照)

贓物ヲ以テ他ノ物品ヲ製造シタル以上ハ他ノ物品ノ如何ナル物タルヲ問ハス森林法第三十八條第二ヲ適用處斷スヘキモノトス
 森林竊盜ニシテ森林法第三十八條ノ各號中其一ニ當ル所爲アルトキハ同條第一項ヲ適用スヘキモノトス從テ認定ノ事實ニシテ數號ニ涉ル場合ト雖モ其一ヲ判示スルヲ以テ足ル
 森林竊盜(森林法第三十八條)ニシテ其贓額ヲ確定セサレハ罰金ノ範圍ヲ定ムルコト能ハサル
 案件ナルニ贓物ノ價格ヲ明示セスシテ罰金ヲ言渡シタル判決ハ不法ナリ
 贓物ヲ以テ物ヲ製造シタル事實ハ森林竊盜罪ニ於ケル加重ノ情態ニ過キス從テ特ニ其製造ノ場所及ヒ年月日ヲ判示スルノ要ナシ

森林法第三十八條第七號ニハ「三人以上共謀シ又ハ五人以上ヲ雇使シテ其罪ヲ犯シタルトキ」トアリテ三人以上共謀若クハ五人以上雇使ノ一事實アルトキハ同條ノ犯罪ヲ構成シ二箇ノ事實併存スルモ爲メニ罪刑ヲ異ニスルコトナシ從テ第二審裁判所カ第一審裁判所ト共謀者ノ數ニ付キ認定ヲ異ニスルモ雇使シタル人員ニ付キ認定ヲ同フスルトキハ犯罪構成ノ事實ヲ變更シタルニ非サルヲ以テ第一審判決ヲ取消スノ要ナシ
 拂下木ノ伐採ヲ爲スニ際シ拂下木ニ押用セル公檢印ヲ他ノ良木ニ盜捺シ立會簿記載ノ拂下木ノ廻尺ヲ改竄シ看守ヲシテ伐採ノ許可ヲ與ヘシメ拂下以外ノ良木ヲ盜伐シタル所爲ハ森林竊盜ニシテ詐欺取財ニ非ス

森林法ニ規定スル罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用非スシテ數罪ヲ併科スルモノトス從テ二箇ノ罰金刑ニ對シ之カ換刑ヲ命スルニ付テモ亦各別ニ換刑スヘキモノニシテ罰金額ヲ通算シテ換刑ヲ爲スヘキモノニ非ス

三五	二	九五
三五	四	一八六
三五	八	一七
三六		三五八
三六		四〇〇

森林法

一一三三

森林法第五十一條ハ森林法違背ノ數罪カ併發シタル時ト森林法違背ノ罪ト刑法上ノ罪トカ併發シタル時トナ間ハ刑法ノ數罪俱發例ヲ用非サル法意ナリトス

森林法第五十三條ハ贓物ノ種類ヲ列舉シタルモノニシテ贓物ヲ制限シタルモノニ非ス從テ盜伐シタル樹木ヲ以テ製造シタル角材ノ如キハ當然同條ニ包含スヘキモノトス

森林法ニ所謂贓物トハ單ニ犯罪ニ因テ得タル物品ノミナラス其物品ヲ原料トシテ製造シタル物品チモ尙ホ贓物ト看做スモノトス

森林法第三十八條第二號ニハ「其他ノ物品」ナル極メテ廣汎ナル文字ヲ用非其物品ノ性質種類ニ付キ何等ノ制限區別ヲ設クルコトナシ從テ同規定ヲ適用スルニハ盜伐ノ目的タル木材カ犯人ノ加ヘタル工作ノ結果木材タルノ性質ヲ失却シ木材以外ノ物品ニ變シタル事實アルノミヲ以テ足レリトシ其物品ノ何タルヤハ之ヲ問フヲ要セサルモノトス

林産物採取ノ權利ヲ有セサル者カ其權利ヲ有スル者ト共謀シテ盜伐ヲ行ヒタルトキハ森林法第三十八條第六號ニ依リテ處罰セラルヘキモノトス

森林法第三十八條ハ贓物ノ價格カ二圓以上ナル場合ニ於テハ其價格以下ノ罰金ニ處スルコトヲ禁止シタルモノトス故ニ縱令宥減減輕ニ依リ罰金ノ最低額カ二圓以下ニ下ル場合ト雖モ贓物ノ價格以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得ス

森林法第三十八條第六號ハ林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其權利ナキ林産物ヲ採取シタル場合ニ適用スヘキモノトス故ニ拂下ヲ受ケタル立木ノ存在スル地域ノ内外ヲ問ハス苟モ拂下木伐採ニ際シ他ノ立木ヲ盜伐シタルトキハ此規定ヲ適用セサルヘカラス

森林法第五十三條ノ規定ハ同法ニ於テ贓物ト看做スヘキモノヲ例示シタルニ過キスシテ之ヲ制限シタルモノニ非ス故ニ森林竊盜ノ贓物ヲ以テ製造シタル板ノ如キモ亦該法條ノ贓物ニ包含ス

三六	三六	三六	三六	三七	三七	三七	三七	三七	三七
六〇三	一七四	一七四	一七四	一七九	二五	二五	二五	二五	二五

含ス

犯人カ盜伐ノ目的タル材木ヲ原料ト爲シ茸木ヲ製造シタル以上ハ之ニ椎茸ノ發生スルト否トナ論セス森林法第三十八條第二號ニ該當スルモノトス

被告ノ所爲カ森林法第三十八條第一乃至第九號ノ何レニ該當スルヤ事實理由ニ於テ明カナルトキハ特ニ同條何號ニ該當スルヤヲ說示セサルモ違法ニ非ス

森林ニ付キ或權利ヲ有シ之ニ火入ヲ爲スコトヲ得ル者ト雖モ若シ當該官吏ノ許可ナクシテ之ヲ爲シタルトキハ森林法第四十九條ノ制裁ヲ受クヘキモノトス

森林ニ付キ自ラ何等ノ權利ヲ有セサル者ハ縱令枯草ヲ燒燬シテ更ニ長草ヲ發生セシメ之ヲ自己ノ利益ニ供セントスル意思ニ因リ其森林ニ火ヲ放チ燒燬シタルトキト雖モ森林法第四十一條ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス

森林トハ林叢ノ有無ヲ問ハス森林ノ地目アル場所ヲ汎稱スルモノトス從テ國有林内ノ枯草ニ放火シ之ヲ燒燬スルハ即チ森林ノ燒燬ニ外ナラス

舊森林法第四十六條ノ規定ハ何人ト雖モ成規ノ手續ヲ履踐セス同法所掲ノ命令ニ違背シ伐木ヲ爲シタル者ハ總テ之ヲ處分スヘシト云フニ在リテ同法ニ依リ特ニ禁止者クハ制限ヲ受ケタル者カ其命令ニ違背シ伐木シタル場合ニノミ之ヲ適用スル法意ニ非ス

三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七
一六六	一六六	一六六	一六六	一六六	一六六	一六六	一六六	一六六	一六六

農會法

○農會ハ私法人ニシテ公法人ニ非ス

肥料取締法

農會法 肥料取締法

一一三三

肥料取締法

一三四

○肥料取締法第九條第二號ニ所謂肥料ニ他物ヲ混和スルトハ既成ノ肥料ニ他物ヲ混入スルト製造中ノ肥料ニ之ヲ混入スルトヲ問ハス廣ク免許又ハ認可ヲ受ケテ製造スル肥料中ニ他物ヲ混入シタル場合ヲ包含セルモノトス

(參照)

肥料取締法第七條ニ所謂肥料ノ偽造トハ農産物ノ肥養ト爲ラサル物料ヲ以テ肥料ニ擬シタルモノヲ造リタル場合ヲ指稱シ一定ノ肥料ニ他ノ物件ヲ混和シタル場合ハ之ニ包含セズ
肥料取締法第七條ニ所謂肥料ヲ偽造若クハ他ノ物料ヲ混和スルトハ一定ノ原料並ニ製造方法ヲ以テ製造シ且一定ノ名稱ヲ有スル肥料中ニ他ノ物料ヲ混和シ又ハ他ノ物料若クハ製造方法ヲ以テ之ヲ偽造スルノ謂ニシテ其混和シタル物料又ハ偽造肥料ノ原料ト爲リタル物件カ農産物ノ肥養ト爲ルト否トハ問フ所ニ非ス
偽造ノ肥料若クハ他物ヲ混和セル肥料ヲ販賣シタルトキハ他ニ欺罔手段ヲ用井タルト否トニ拘ハラズ肥料取締法第七條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス
肥料取締法第七條ハ刑法ノ規定ニ包含セル偽造ノ肥料及ヒ他物ヲ混和シタル肥料ヲ販賣シタル所爲ニ對シ新ニ特別ノ罰則ヲ設ケタルモノトス從テ刑法第三百九十二條ハ該規定ノ限度ニ於テ自ラ變更セラレタルモノナリ
肥料取締法第七條ハ苟モ肥料ヲ偽造若クハ他物ヲ混和シテ販賣シ又ハ情ヲ知テ之ヲ販賣スルニ於テハ其免許ヲ受ケタル營業者ナルト否トヲ論セス之ヲ處罰スルノ法意ナリ
肥料ノ製造販賣者カ免許ヲ受ケタル原料若クハ製造方法ノ全部又ハ一部ヲ擅ニ變更シタル以

四

二九

三

六六

三

七五

三

四〇

三

四〇

三

四〇

上ハ其變換セル原料カ農産物ノ肥養ト爲ルヤ否ヤヲ問ハズ肥料取締法第七條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス
肥料取締法第二條及ヒ同施行規則第一條ニ依リ地方長官ノ免許ヲ受ケタル原料ノ種類又ハ製造方法ヲ擅ニ變更シテ肥料ヲ製造シ免許ヲ受ケタル肥料ナリト詐リ之ヲ販賣スル者ハ同法第七條ノ所謂肥料ヲ偽造シテ販賣シタルモノニ該當ス
肥料取締法第七條末段ノ規定ハ肥料ヲ偽造シ若クハ他ノ物料ヲ混和シテ其幾部ヲ販賣シタル以上ハ既ニ販賣シタルモノト未タ販賣セザルモノトヲ分タス悉ク之ヲ沒收スルノ法意ナリ
肥料取締法第七條ハ人ヲ欺罔スルコトヲ以テ犯罪構成ノ要件ト爲サザレハ特ニ其旨ヲ判文ニ示スノ要ナシ

肥料取締法施行規則

(參照)

肥料取締法施行規則第十條ハ同規則第一條第三項ノ手續ヲ履行セサル者ニ對スル制裁ニ外ナラスシテ實體上一定ノ肥料ヲ偽造シ又ハ之ニ他物ヲ混和シ以テ純粹ナル肥料ナリトシテ人ヲ欺キタル場合ニ適用スヘキ規定ニ非ス

蠶病豫防法(明治四十四年法律第四十號蠶絲業法ニ依リ廢止)

(參照)

蠶病豫防法第十三條ノ検査合格ノ證印ナキ蠶種ヲ讓渡シ得サル禁令ハ蠶種製造業者モ亦之ヲ遵守スヘキモノニシテ且其業務ニ關スル規定ナリトス故ニ製造業者ノ妻カ同條ニ違背シタル

肥料取締法施行規則 蠶病豫防法

一三五

四〇

一七

四〇

一七

四〇

一六

四

八三

三

七五

蠶種検査規則 狩獵法 鑛業條例

一三三六

行爲ニ付テハ同法第二十六條ニ從ヒ製造業者ニ於テ其責任ヲ負擔スヘキハ當然ナリ
蠶病豫防吏員ハ蠶病豫防法第二十條ノ規定ニ基キ置カラルモノニシテ公法人タル府縣ノ行政
事務ノ執行ヲ掌ル吏員ナリトス故ニ該吏員ハ公吏ニシテ其職印ハ公印ナリ
人ヲ欺罔シテ金員ヲ騙取スルニ當リ他人ノ製造ニ係ル蠶卵種ノ掃殼壘紙ノ反面ニ白紙ヲ貼布
シ検査ヲ受ケサル蠶ヨリ出テタル蛾ヲ以テ之ニ産卵セシメ恰モ検査合格ノ蠶卵種ナルカ如ク
裝ヒ賣渡ノ約定ヲ爲シ之ヲ被害者ニ交付シタルトキハ私文書偽造行使詐欺取財罪ノ外別ニ蠶
病豫防法第十三條及ヒ同法施行規則第十三條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

蠶種検査規則(明治三十年法律第十號)
蠶種検査法ニ依リ廢止

(參照)

蠶種検査所ハ官廳ニシテ公署ニ非ス

狩獵法

(參照)

狩獵禁制ノ場所ニ於テ狩獵ヲ爲シタルトキハ狩獵ニ用ヒタル銃及ヒ網等ハ罪體ニシテ犯罪ノ
用ニ供シタル物件ニ非ス
狩獵トハ銃及ヒ網等ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ云フ

鑛業條例(明治三十八年法律第四十號)
鑛業法ニ依リ廢止

(參照)
鑛業條例第七十八條ニ所謂特許ヲ得スシテ探掘ヲ爲シタル者トハ探掘者ノ有意ナルト無意ナル
トトテ問ハス總テ之ヲ包含ス

新潟縣令鍼灸治營業取締規則

○新潟縣令鍼灸治營業取締規則第五條第十一條ハ醫術ヲ營業トスル目的
ナクシテ唯鍼灸治ヲ受ケタル患者ニ藥劑及ヒ處方ヲ與ヘ又ハ之ヲ指示
シタル鍼灸治者ヲ處罰スルノ趣意ナリトス

大分縣令牛乳營業取締規則

○大分縣令牛乳營業取締規則第七條第三號及ヒ第十八條ハ犯人カ人ヲ欺
罔シ不正ノ利益ヲ得ントスル意思ノ存セサル場合ニノミ適用セラルヘ
キモノトス

德島縣訓令第五十五號

○德島縣訓令第五十五號海外渡航ニ關スル取扱手續ニ依レハ渡航許可及
ヒ旅券下付出願者ノ身元調ニ關スル郡市長ノ照會ハ警察署長又ハ警察
分署長ニ其身元調ヲ爲スノ權限ヲ授與スル命令ニ非スシテ此等ノ官吏

新潟縣令鍼灸治營業取締規則 大分縣令牛乳營業取締規則
德島縣訓令第五十五號

一三三七

三九	四二	四二	三〇	三〇	三〇
一〇五四	四九〇	四九〇	一	九	九
			一四	九四	九四

三九	四〇	三九
四七	三六	一

明治六年布告第二號 明治六年布告第三十六號 明治十年布告
第二十二號 明治十三年布告第二十一號

一三三八

ニ對シ訓令ノ規定上當然其職權ニ屬スル身元取調ノ處分ヲ促ス所ノ行
政手續ニ過キサレモノトス

明治六年布告第一號

○一月一日ヨリ三日マテハ法律上ノ休暇ナリ

明治六年布告第三十六號 (明治三十五年法
律第五十號ニ依

リ全部
改正)

(參照)

年齢ノ計算ハ月ヲ以テスヘキモノニシテ日ヲ以テスヘキモノニ非ス

明治十年布告第二十二號

○檢事ハ明治十年太政官布告第二十二號ニ依リ犯罪ノ捜査上醫師ニ死體
ノ解剖ヲ命スル職權ヲ有ス故ニ醫師ヲシテ其解剖ノ結果ニ付キ鑑定ヲ
爲サシムルハ違法ニ非ス

明治十三年布告第二十一號 (明治二十六
年法律第五

四〇	三九	三九	四〇
一三五	二六	五	八一

號取引所法
ニ依リ廢止)

(參照)

取引所條例ニ觸レ過念金ヲ科セラレタルモ個ハ取引所カ其者ニ對スル一ノ懲戒處分ニ過キサ
ルヲ以テ之カ爲メ一般法律ノ規定スル刑罰ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

明治十四年布告第七十二號 (明治四十一
年法律第二

十九號刑法施行
法ニ依リ廢止)

(參照)

國立銀行條例違犯ノ所爲ニシテ刑法ニ明文アルモノハ明治十四年第七十二號布告第六條ニ基
キ刑法ニ從テ處斷シ同條例ノ規定ヲ適用セス
明治十四年布告第七十二號第五條ニ所謂法律規則ヲ犯シタルモノハ刑法ノ再犯加重及ヒ數
罪俱發ノ例ヲ用ヒストハ刑法施行以前ノ法律規則ヲ指シタルモノトス
明治十四年布告第七十二號第五條ノ規定ハ刑法實施以前ノ頒布ニ係ル法律規則ニ違背セル所
爲カ數罪俱發シタル場合ハ勿論其所爲カ刑法ノ犯罪ト俱發シタル場合ニ於テモ尙ホ刑法ノ數
罪俱發例ヲ用非スシテ其刑ヲ併科スルノ旨趣ナリトス

明治十四年布告第七十三號 (明治三十一
年法律第十

二五	二九	三〇	四〇
四	六	八	
四四	三〇	一	一四五

明治十四年布告第七十二號 明治十四年布告第七十三號

一三三九

明治十四年布告第八十一號 明治十五年布告第二十五號

一一四〇

一號民法施行
法ニ依リ廢止

(參照)

妻ノ犯罪ニ因テ他人ニ加ヘタル損害ハ其夫民事擔當人トシテ賠償ノ責任スヘキモノトス
同居ノ親族ニシテ未成年者ノ民事擔當人タルヘキ者ハ戶籍上ノ同居者ニ非スシテ實際上ノ同
居者ナリ

明治十四年布告第八十一號(明治四十一
年法律第二

十九號刑法施行
法ニ依リ廢止

(參照)

明治十四年第八十一號布告ハ現行刑法ノ實施ニ際シ新法タル現行刑法ト舊法タル新律綱領改
定律令トノ輕重ヲ比照スル爲メニ頒布セラレタルモノトス從テ同布告ハ酒造税法ニ於ケル新
舊法條ノ輕重ヲ比照スル場合ニ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

明治十五年布告第二十五號(明治四十年
法律第四十

五號刑法ニ
依リ失效

(參照)

被告カ富籤購買ノ所爲再犯ニ係ルトキハ明治十五年第二十五號布告第二條ニ定メタル二十日
以上四月以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金ノ二倍ノ範圍内ニ於テ處分スヘキモノトス
乃チ被告ハ前キニ同罪ニ付キ重禁錮二月十五日罰金十圓ニ處セラレタルモノナレハ同布告第
三條(第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科
シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス)ノ但書ニ從ヒ本件ノ最下減テ重禁錮二月十五日罰金十圓
ト定メサルヘカラス左スレハ縱令ニ等ヲ酌減スルモ其最下減テ一月七日ノ重禁錮即チ二月十
五日ノ四分ノ二、五圓ノ罰金即チ十圓ノ四分ノ二ニ下スコトヲ得ス然ルニ原裁判所カ被告再
犯ノ所爲ニ對シ重禁錮一月罰金六圓ニ處シタルハ加減法ヲ誤リタルモノナリ又同布告ノ第二
條ニ二倍トアルチ前キニ被告ニ科シタル刑期金額ノ二倍ニ處スヘキモノト解釋スルハ誤釋ナ
リ

帝國内地ニ在ル甲者カ臺灣ニ在ル乙者ニ對シ其名義ヲ以テ臺灣總督府發行ノ彩票ヲ買入レ之
ヲ送付センコトヲ申込ミ乙者其申込ニ應ジテ彩票ヲ買取リ甲者ノ住居ニ郵送シタルトキハ該
彩票ハ甲者カ他人ヲ利用シ帝國内地ニ於テ自ラ之ヲ購買セルモノニ外ナラス
犯人カ當籤彩票ヲ他ニ賣却シ因テ得タル爲替手形ハ法律行爲ナル賣買ニ基クモノニシテ彩票
ノ旨趣ニ從ヒテ之ヲ取得シタルモノニ非ス故ニ其賣買ノ犯罪ト爲ラサル以上ハ該手形ハ明治
十五年布告第二十五號第六條ノ所謂財物ニ該當セス

明治三十九年臺灣總督府律令第七號及ヒ同年臺灣總督府令第五十四號ニ依ル彩票ハ帝國内地
ニ於テハ明治十五年布告第二十五號ヲ以テ禁止セル富籤ト其實質ヲ異ニスル所ナシ從テ富籤
興業者ノ一人ナルト否ト將タ其興業者ノ處罰セラレルト否トヲ問ハス苟モ内地ニ於テ之ヲ
購買シ又ハ讓受ケタル以上ハ富籤購買又ハ讓受罪ヲ構成スルモノトス

明治十五年布告第二十五號

一一四一

三〇 二
三六 七
三二 六

四二 五九一

二六 三〇五

四二 二二九

四二 二二九

四二 二二九

明治二十二年法律第二十八號(明治四十年)

法律第二十九號刑法(施行法ニ依リ廢止)

(參照)

議員ノ公務上ノ言論行爲ニ付キ公然誹毀シタルトキハ其議席ニ在ルト控席ニ在ルトヲ問ハズ總テ明治二十二年法律第二十八號第二條ノ制裁ヲ受クヘキモノトス
明治二十二年法律第二十八號(議會助議員ノ保護ノ件)ニ所謂公然トハ秘密ニ對スルノ語ニシテ秘密ナラサル場合ハ常ニ公然ナリトス從テ公然ノ誹毀侮辱ト爲ルニハ敢テ不特定ナル多數人ニ對シテ之ヲ爲スヲ要セス特定シタル少數人ニ對スル場合ト雖モ苟モ其行爲ノ秘密ナラサル以上ハ公然ノ誹毀侮辱ナリトス

明治二十二年法律第二十八號議會及議員ノ保護ニ關スル罰則第二條ニ所謂公然ノ侮辱トハ議員ノ名譽ヲ毀損スヘキ言語文書ヲ第三者ノ視聽ニ達セシメ又ハ第三者ノ知り得ヘキ場所ニ於テ之ヲ公表スルノ儀ニシテ其第三者カ被侮辱者ト利害ヲ同ウスルヤ否ヤハ侮辱ノ成否ヲ定ムルノ標準ト爲ルモノニ非ス
村立小學校生徒ノ運動場ヲ設置スルカ如キハ町村制第三十三條第二號ニ所謂町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ナレハ生徒ノ運動場ニ充ツル爲メ御料林拜借ノ事ヲ議決スルハ村會ノ權限ニ屬スヘキモノトス從テ其議決ニ干與セル村會議員ノ公務上ノ行動ニ關シ侮辱ヲ加ヘタル所爲ハ

明治二十二年法律第二十八號第二條ノ犯罪ヲ構成ス
村長ノ選舉ニ關シ村會議員ニ暴行ヲ加ヘタル以上ハ縱令其選舉終了後村會閉會ノ際ニ係ルト

三〇

三

一七

三六

一七

三七

一七六

三七

一七六

雖モ議員ノ公務上ノ行爲ニ關セサルモノト云フヲ得ス

郡會議員ノ公務上ノ行爲ニ關シ之ヲ侮辱シタル後意思ヲ繼續シテ暴行ヲ加ヘタル所爲ハ議會助議員保護法第二條ニ依リ一罪トシテ之ヲ處分スヘキモノトス

明治二十二年法律第二十八號第二條ハ法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シ其職務上ノ言論行爲ニ付キ同條ニ掲グル所爲ヲ行ヒタル者ニハ其議會閉會中ニ在ルト否トニ拘ハラズ同條所定ノ制裁ヲ加フルノ法意ナリトス

縣會議員ノ公務上ノ言論行爲ニ對シ新聞紙ヲ以テ誹毀侮辱セル所爲ハ明治二十二年法律第二十八號第二條ノ犯罪ヲ構成ス而シテ其誹毀侮辱ノ目的タル行動カ縣會議場内ノモノナルト否トハ犯人ノ罪責ニ何等ノ影響ヲ及ボサズ

明治二十二年法律第三十四號

○決闘處分法ニ所謂決闘トハ當事者ノ人員如何ヲ問ハズ兇器ノ對等ナルト否トヲ論セス合意ニ因リ身體生命ヲ傷害スヘキ暴行ヲ以テ相闘フ行爲ヲ指稱スルモノトス

明治二十二年法律第九十九號(明治四十年)

第二十九號刑法(施行法ニ依リ廢止)

(參照)

明治二十二年法律第三十四號 明治二十三年法律第九十九號

一一四三

三七

二〇三

四〇

一

四〇

三六

四〇

二八九

四〇

一二六

明治二十三年法律第百號 明治二十三年法律第百一號

一二四四

家屋其他ノ建造物外ニ於テ犯シタル竊盜(明治二十三年法律第九十九號)トハ看守ノ周到ナラサルニ乘シテ犯シタル竊盜ヲ云フ故ニ此屋外竊盜ナリヤ否ヤハ看守ノ程度如何ニアリテ家屋ナル物體ニ依リテノミ區別スルヲ得サルモノトス從テ兩戸ヲ鎖シタル後看守ノ行届カサル兩戸外ノ椽側ニアリタル物品ヲ竊取シタル所爲ハ屋外竊盜ヲ以テ論スヘキモノトス
明治二十三年法律第九十九號第一條(屋外竊盜ノ規定)ハ普通竊盜ニ關スル刑法第三百六十六條ノ例外ニシテ水災震災其他ノ變ニ乘シテ犯シタル竊盜(刑法第三百六十七條)及ヒ門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キテ犯シタル竊盜(刑法第三百六十八條)ノ場合ニ適用スヘキ法律ニ非ス
溜池ニ飼養シタル魚類ヲ竊取シタル所爲ハ即チ池沼ニ於ケル產物ヲ竊取シタルモノトス

明治二十三年法律第百號(明治四十年法律第四十五號刑法ニ依リ) 失効)

(參照)

村長及ヒ助役ノ職印ハ明治二十三年法律第百號ニ所謂公署ノ印ニ包含ス
明治二十三年法律第百號ニ所謂公署トハ主トシテ地方自治團體ニ屬スル行政事務ノ執行ヲ掌ル吏員ヲ指シタルモノトス而シテ市參事會員ハ右法律ニ所謂公署ナリトス

明治二十三年法律第百一號

○被告ハ原院カ被告ヲ處罰スルニ未タ實施セサル明治二十三年法律第百

三六九

三七〇

三七一

三七二

一號(破産宣告ヲ受ケタル者ノ處罰)ヲ適用シタルハ不法ナリト論告ス
レトモ該法律ハ明治二十三年法律第九號ヲ以テ明治二十六年一月一日ヨリ施行ヲ命シタルモノニシテ其以來會テ之ヲ停止シタルコト無シ故ニ該法律ノ基本タル商法一部ノ施行セラルルニ當テハ固ヨリ其ニ施行セラルヘキモノナルヲ以テ原院カ之ヲ適用シタルハ相當ナリ

明治三十一年法律第七十號

(參照)

在外韓國臣民ニ對スル領事裁判權ハ明治三十八年十一月ノ日韓協約ニ依リ帝國領事官ニ歸屬シタルヲ以テ明治三十二年法律第七十號ハ其領事裁判ニ付テモ當然適用セラルヘキモノトス

明治三十二年法律第九十八號(明治三十年法律第六十八號ニ依リ改正)

第六十八號
ニ依リ改正)

(參照)

間接國稅犯則者處分法中間稅官吏ニ屬スル職務ハ葉煙草專賣事務ニ從事スル官吏モ亦之ヲ行フコトヲ得從テ葉煙草專賣局屬ハ葉煙草專賣法違犯事件ニ付キ犯則嫌疑者及ヒ參考人等ヲ尋問スルノ權利ヲ有ス

明治三十二年法律第七十號 明治三十二年法律第九十八號

一二四五

三七三

三七四

三七五

明治三十三年法律第五十二號

○株式會社ニ對スル酒造税法違反被告事件ニ付キ其代表者タル專務取締役ヲ被告人トシテ審理シタル末同會社ノ支配人カ業務ノ執行上税法ニ違反セシ事實ヲ認定シタルトキハ裁判所ハ被告人トシテ該取締役ノ名義ヲ判文ニ掲載シ同會社ヲ處罰スル旨ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

三

一〇四九

明治三十五年法律第二十二號(明治四十年法律第

三十一號ニ依リ廢止)

(參照)

明治三十五年法律第二十二號第一條ハ國稅ノ課稅標準額及ヒ稅額ハ四拾五入ノ法ニ依リ錢位ニ止ムト規定シ納稅者ニ課スヘキ稅額ハ總テ此規定ニ從ヒ之ヲ算定スヘキモノトス故ニ造石稅額ヲ以テ脫稅者ニ科スヘキ罰金ヲ定ムルノ標準ト爲シタル場合ニ於テモ亦其造石稅額ハ該規定ニ則リ之ヲ錢位ニ止メサルヘカラス

三

七五

明治三十八年法律第六十六號

○荷モ流通セシムルノ目的ヲ以テ外國ニ於テノミ通用スル紙幣ノ偽造物

ヲ授付シ又ハ收受シタル以上ハ直ニ明治三十八年法律第六十六號第三條ノ犯罪ヲ構成ス而シテ此事實以後ニ於ケル所爲如何ハ之ヲ問フノ限ニ在ラス

三

一三三六

○犯人カ帝國政府ノ發行ニ係ル軍用手票偽造ノ目的ヲ以テ器械原料器具ヲ製造準備シタルノミナラス進ンテ其器械原料器具ヲ使用シ偽造ニ著手シタルトキハ其所爲ノ全部ニ對シテ明治三十八年法律第六十六號第一條ヲ適用スヘキモノトス

三

一三四四

○偽造ニ係ル外國流通ノ證券ヲ所持スル者カ之ヲ賣却讓渡セントスルノ意思ヲ外部ニ發表スルモ相手方ニ對シ直接又ハ間接ニ其意思ヲ表示シタルモノニ非サルトキハ該行爲ハ犯罪ノ豫備タルニ過キス從テ證券所持人ノ所爲カ此程度ニ於テ終了ヲ告ケタル場合ニハ其原因任意ノ中止ニ存スルト意外ノ障礙舛錯ニ在ルトニ論ナク犯罪ヲ構成セサルモノトス

三

五〇八

○明治三十七年勅令第七十七號同三十八年法律第六十六號第一條ハ孰レモ偽造變造物體ヲ流通セシムルノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造シタル事實ヲ犯罪構成ノ一要素ト爲スカ故ニ其第四條ヲ以テ處斷スル場合ニ於テモ亦被告ノ目的ハ偽造變造物體ヲ流通セシムルニ在リシコトヲ認定

セサルヘカラス

○明治三十八年法律第六十六號第六條ニ所謂未遂犯罪ノ例トハ舊刑法ノ未遂犯罪ニ關スル規定ヲ指稱シタルモノナレトモ新刑法實施後ニ於テハ刑法施行法第二十二條ニ從ヒ新刑法ノ未遂犯罪ニ關スル規定ニ變更セラレ其結果刑ノ變更ヲ生シタルモノトス故ニ裁判所カ刑法第六條ニ依リ新舊二法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷シタルハ相當ナリ

○明治三十八年法律第六十六號第三條第一項ニハ偽造者自ラ其偽造紙幣ヲ他ニ交付シタル場合ヲ除外スヘキ制限的文詞ナケレハ偽造者ト雖モ之ヲ他人ニ交付シタル以上ハ其以外ノ者カ偽造ノ情ヲ知テ交付シタル時ト同シク該條項ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス

○明治三十八年法律第六十六號第一條ハ金銀貨紙幣銀行券ノ次ニ特ニ帝國官府發行ノ證券ト掲クルヲ以テ金銀貨紙幣及ヒ銀行券ニ付テハ帝國發行ノモノト外國ノ發行ニ係ルモノト別ナク共ニ之ヲ包含スルノ法意ナリトス

(同主旨)

明治三十八年法律第六十六號第一條第一項ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ内外國何レノ發行ニ係ルヤナ問ハス外國ニ於テノ流通スル金銀貨紙幣銀行券ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ニハ同

三九

五四九

四

九七

四

六〇〇

四二

一四六〇

條所定ノ刑罰ヲ科スルノ旨趣ナリトス

明治三十八年法律第七十號(明治四十年法律第四十

五號刑法及同四十一年法律第二十九號刑法施行法ニ依リ失効)

(參照)

上告裁判所ニ於テ被告人ニ對シ刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀ヲ認ムルトキハ明治三十八年法律第七十號ノ規定ヲ適用スヘキモノトス
刑ノ執行猶豫ノ裁判ニ對シテハ檢事ニ限リ上訴ヲ爲スノ權利ヲ有シ被告ハ上訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

明治三十八年法律第七十號ハ普通刑法總則ノ一部トシテ規定セラレタルモノトス從テ陸海軍刑法ニ依リ言渡シタル刑ニ付テハ軍法會議ニ於テ其言渡ヲ爲シタル場合ト將タ司法裁判所ニ於テ爲シタル場合トナ問ハス常ニ之ヲ適用セサルノ法意ナリ

明治四十年法律第三十一號

○税法中造石税ニ基キ罰金額ヲ定メタル場合ニ於テ其稅額ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ明治四十年法律第三十一號第一條ニ依リ之ヲ切捨テ造石稅額ヲ定メ而シテ後之ニ據リテ罰金額ヲ算定スヘキモノトス

明治二十四年勅令第三號

明治三十八年法律第七十號 明治四十年法律第三十一號 明治二十四年勅令第三號

四二

一六三

三六

一〇五

四二

二二四

四二

二二四

四二

一七六

- 大林區署長ハ事務ノ分任トシテ其所屬官吏ヲ指定シ國ヲ代表シテ訴訟ヲ爲サシムルコトヲ得而シテ訴訟事件ノ發生前豫メ之ヲ指定シ置クハ法ノ禁スル所ニ非ス
- 大林區署長カ國ノ代表者ヲ指定スルニ付キ明治二十五年勅令第六號第三條ハ何等ノ制限ヲ爲スコトナシ從テ其指定ノ訴訟ノ起リタル前ナルト後ナルトハ之ヲ問ハサルモノトス
- 長官ノ指定ニ依リ國ヲ代表スル者ハ法定代理人ノ一種ニシテ訴訟代理人ニ非サレハ各審級ヲ通シテ訴訟ヲ爲スノ權能アルモノトス
- 鎮守府經理部ハ鎮守府ノ一部ナルカ故ニ其分掌事務ニ關スル民事訴訟事件ニ付テハ鎮守府ニ於テ國ヲ代表スヘキモノトス
- 民事訴訟ニ付キ國ノ代表者ヲ定メタル勅令及ヒ省令ハ私訴ニ付テモ亦之ヲ適用スヘキモノナリ
- 大藏大臣ノ委任ニ因ル事務ト雖モ北海道廳長官府縣知事ニ於テ之ヲ處理スル以上ハ法律命令ニ因ル事務ト同シク其所管ニ屬スルモノトス故ニ其事務ニ關スル民事訴訟ニ付テハ長官及ヒ知事ハ明治二十四年勅令第三號第三條ニ依リ國ヲ代表スルノ權限ヲ有ス

三〇	三	四六
三五	六	九
三七	一九七	
三九	一六	
三九	一八三	
三九	一〇九	

明治二十五年勅令第四十六號(明治三十年法律

第二十五號)ニ依リ廢止

(參照)

控訴ト共ニ保證金ヲ豫納セスシテ免除ノ請求ヲ爲シ證明書提出期間内ニ更ニ保證金ヲ納付シタリト雖モ其會テ免除ノ請求ヲ爲セシ當時無資力ナリシコトノ證明書ヲ提出セス且既ニ控訴ノ期間ヲ經過シタル後ニ係ルニ於テハ其控訴ノ有效ヲ認ムルヲ得ス

上告趣意書ヲ提出スル日ニ於テ豫納金ヲ添附セサルトキハ上告ヲ爲スノ權ヲ失ヒタルモノトス

罰金ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲サントスルトキハ其罰金十分ノ一ニ當ル金額ヲ上告趣意書ニ添ヘ原裁判所書記局ニ豫納セサルヘカラス故ニ之ヲ爲ササル上告ハ法律上成立セサルモノトス

罰金ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ上告ノ申立ヲ爲ストキハ其十分ノ一ニ該當スル金額ヲ上告趣意書ニ添ヘ原裁判所書記局ニ預ク置クヘシ否ヲサレハ其上告ハ成立セス

明治三十一年勅令第七十號(明治三十二年勅令

第四十二號)ニ依リ失効

(參照)

二五	五	三四
二五	五	一一五
二七	三四九	
二八	一四八	

明治三十三年勅令第八十二號 明治三十五年勅令第二百五十六號

一二五二

發布ノ日ヨリ施行スル勅令ニ違反セシ所爲アルトキハ其發布ヲ知リタルト否トチ問ハス制裁ヲ免ルルヲ得ス

明治三十一年七月勅令第七十號衆議院議員選舉取締ニ關スル罰則ハ衆議院議員選舉法第九十條第九十一條ノ補則タルニ過キス

衆議院議員選舉取締罰則(明治三十一年勅令第七十號)ハ選舉權ノ實行ヲ完全ナラシムルコトヲ目的トスルモノナリ

明治三十三年勅令第八十一號

○市町村收入役ハ納期内ニ於ケル府縣税金ノ拂込ヲ受クヘキ職務ヲ有ス
レトモ其納期後ノ拂込ハ之ヲ受クルノ職務ナキモノトス

明治三十五年勅令第二百五十六號(明治)

三十六年勅令第七十三號ニ依リ廢止

(參照)

偽造ノ韓國通用白銅貨ヲ韓國專航ノ帆船ニ積込ミ韓國ニ向ヒ出帆シタル以上ハ該白銅貨ヲ帝國ヨリ輸出シタルモノトス從テ未ダ韓國ニ輸入ノ目的ヲ達ケサル場合ト雖モ明治三十五年勅令第二百五十六號第二條ニ依リ處罰スヘキモノトス
輸出トハ内國所在ノ貨物ヲ外國ニ向ケ輸送スルコトヲ意味ス從テ内國ノ貨物ヲ船舶ニ積載シ

三六	四	三	三	三
		五	五	一
六二五	二八四	四	四	二五

外國ニ向ケ内國ノ港灣ヲ發スルトキハ此瞬間ニ於テ其貨物ハ海外ニ輸出セラレタルモノトス
苟モ偽造ノ韓國白銅貨ヲ海外ニ輸送スルニ於テハ明治三十五年勅令第二百五十六號第二條ノ
犯罪ヲ構成ス而シテ其輸送ヲ收利ノ目的ナルト他人ノ爲メナルトハ之ヲ問フノ要ナシ

明治三十六年勅令第七十三號(明治三十
七年勅令
第七十七號
ニ依リ廢止)

ニ依リ廢止

(參照)

明治三十六年勅令第七十三號第二條ニ所謂行使トハ偽造銀行券ヲ使用スルノ目的ヲ以テ流通
ニ置クノ意ニ外ナラス從テ單ニ偽造券ヲ他人ニ示シ若クハ之ヲ流通ニ置カシムル爲メ他人ニ
交付シタル事實ノミニテハ未タ以テ其行使アリトスルニ足ラス
情ヲ知リ行使ノ目的ヲ以テ偽造ノ外國銀行券ヲ取得シタル所爲ハ明治三十六年勅令第七十三
號第二條ニ該當ス

明治三十七年勅令第七十七號(明治三十
八年
法律第六十六
號ニ依リ廢止)

法律第六十六
號ニ依リ廢止

(參照)

偽造ノ外國銀行券ヲ行使セシムル目的ヲ以テ知情者ニ讓渡セル所爲ハ新法タル明治三十七年
勅令第七十七號第三條一項ニ該當スレトモ舊法即チ明治三十六年勅令第七十三號ニ於テハ

明治三十六年勅令第七十三號 明治三十七年勅令第七十七號 一二五三

三六 三六

三七 三六

三七 一〇八四

三七 三三七

明治三十七年陸軍省令第一號 明治三十七年海軍省令第一號 一二五四
之ヲ罰スヘキ明文ナケレハ其所爲舊法ノ施行中ニ係ルトキハ無罪ヲ言渡スヘキモノトス

明治三十七年陸軍省令第一號(明治三十
八年陸軍

省令第十九號)
ニ依リ廢止

(參照)

明治三十七年陸軍省令第一號ハ荷モ軍隊ノ進退其他軍機軍器ニ關スルモノハ一時ノ作戰計畫
ニ屬シ既ニ終了シテ過去ノ事項ト爲リタルモノト雖モ豫メ陸軍大臣ノ許可ヲ得サル限ハ之ヲ
新聞雜誌ニ掲載シテ公表スルコトヲ許ササルノ旨趣ナリトス
明治三十七年陸軍省令第一號所定ノ陸軍大臣ノ許可權限ハ之ヲ戰地檢閱官ニ委任セル旨ノ規
定ナケレハ該官吏ノ檢閱ハ單ニ通信ヲ許可スルニ過キスシテ之ニ依リ直ニ陸軍大臣ノ許可ヲ
經タルモノト云フテ得ス

明治三十七年海軍省令第一號(明治三十
八年海軍

省令第十一號)
ニ依リ廢止

(參照)

明治三十七年海軍省令第一號ノ旨趣ハ軍機軍器ノ如何ヲ新聞又ハ雜誌ニ掲載スルコトヲ禁止
シタルハ勿論總テ海軍軍事ニ關スル事項ノ記載ヲ爲ス自由ヲ制限シタルモノトス

三七

三三七

三七

二四四

三七

二四四

三七

六五二

明治三十七年海軍省令第一號ニ謂フ艦船トハ御用船等軍用一切ノ艦船ヲ包含セルモノトス
明治三十七年海軍省令第一號ハ或事項ニシテ荷モ艦船軍隊ノ進退其他軍機軍器ニ關スル以上
ハ其何タルヲ論セス總テ之ヲ新聞雜誌上ニ掲載スルコトヲ禁シタルモノナレハ許可ヲ得スシ
テ掲載シタル各事項毎ニ一罪ヲ構成スルモノトス而シテ共同一紙上又ハ同一記事欄内ニ掲載
シタルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシ
明治三十七年海軍省令第一號ノ規定ハ艦隊艦船若クハ軍隊ノ進退ハ其性質上軍ノ行動ヲ表白
スルモノナルヲ以テ海軍大臣ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ掲載スルコトヲ禁止スルノ趣意
ナリトス

明治二十七年內務省訓令第六十八號

○本籍人ノ前科ヲ役場備付ノ公簿ニ登載スルハ市町村役場ノ職務ニ屬シ
送籍ノ際轉籍地ノ役場ニ對シテ之カ通知ヲ要スルト同時ニ轉籍地ノ役
場モ亦原籍地ノ役場ニ就キ轉籍者ノ前科有無ヲ調査シ其備付ノ簿冊ニ
之ニ相當スル記入ヲ爲スノ職責アリ

三七

六五八

三七

七〇〇

三六

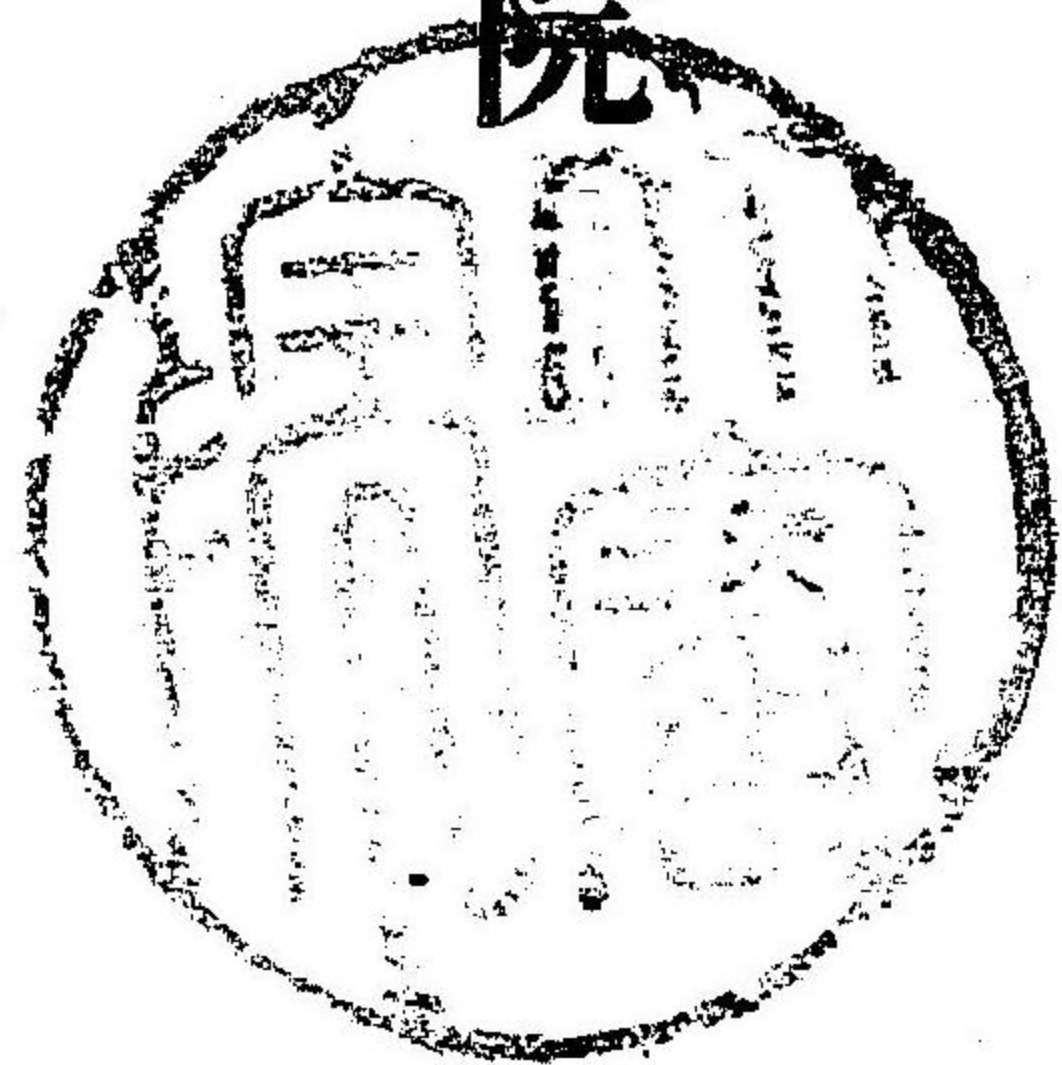
一三五

四三

一三五

有所權作著

大
審
院



明治四十四年十一月一日著作
明治四十四年十二月二十八日發行

3015
4

發行者 中央大學

東京市神田區錦町二丁目二番地

代表者 菊池武夫

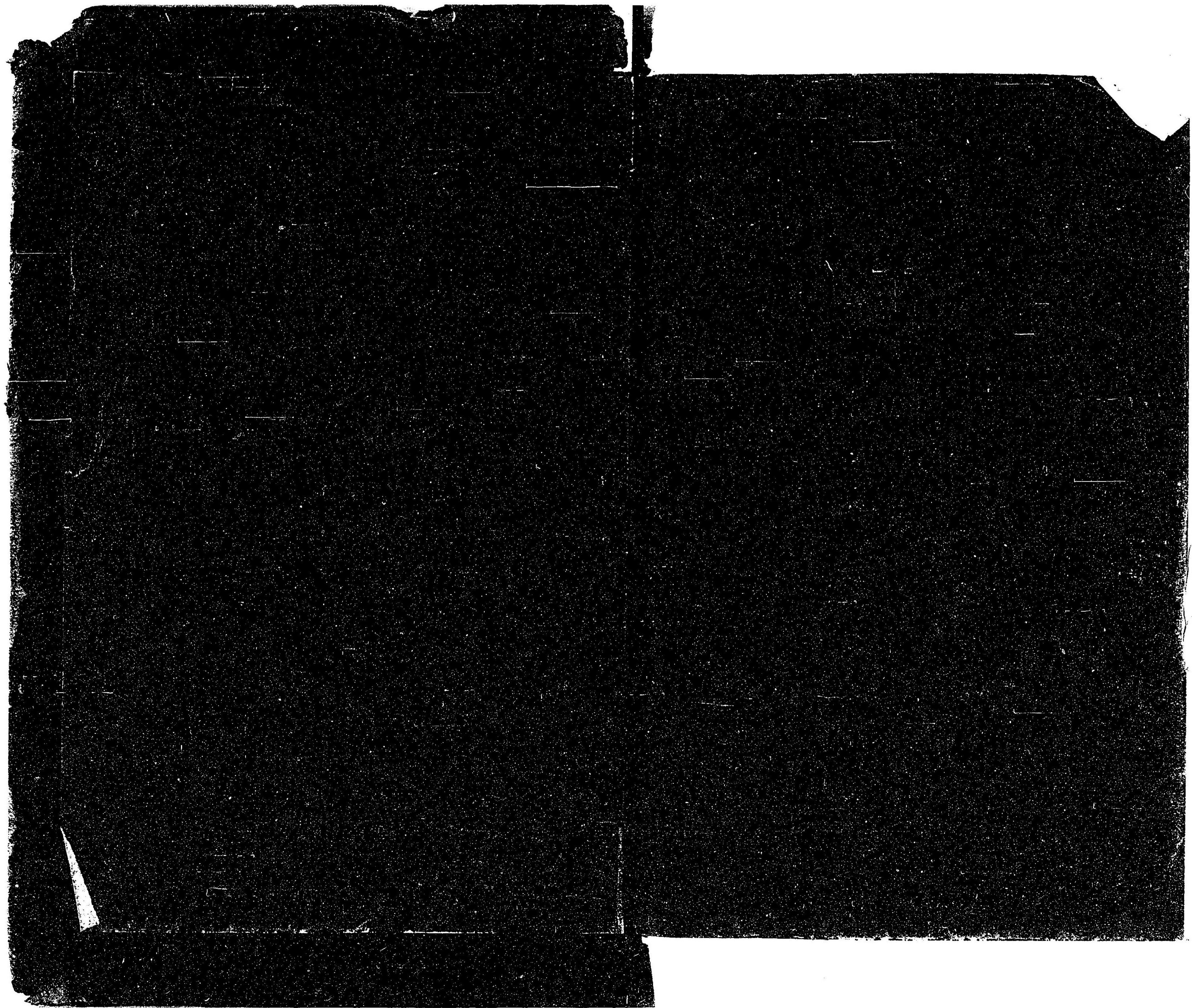
東京市麴町區內幸町一丁目三番地

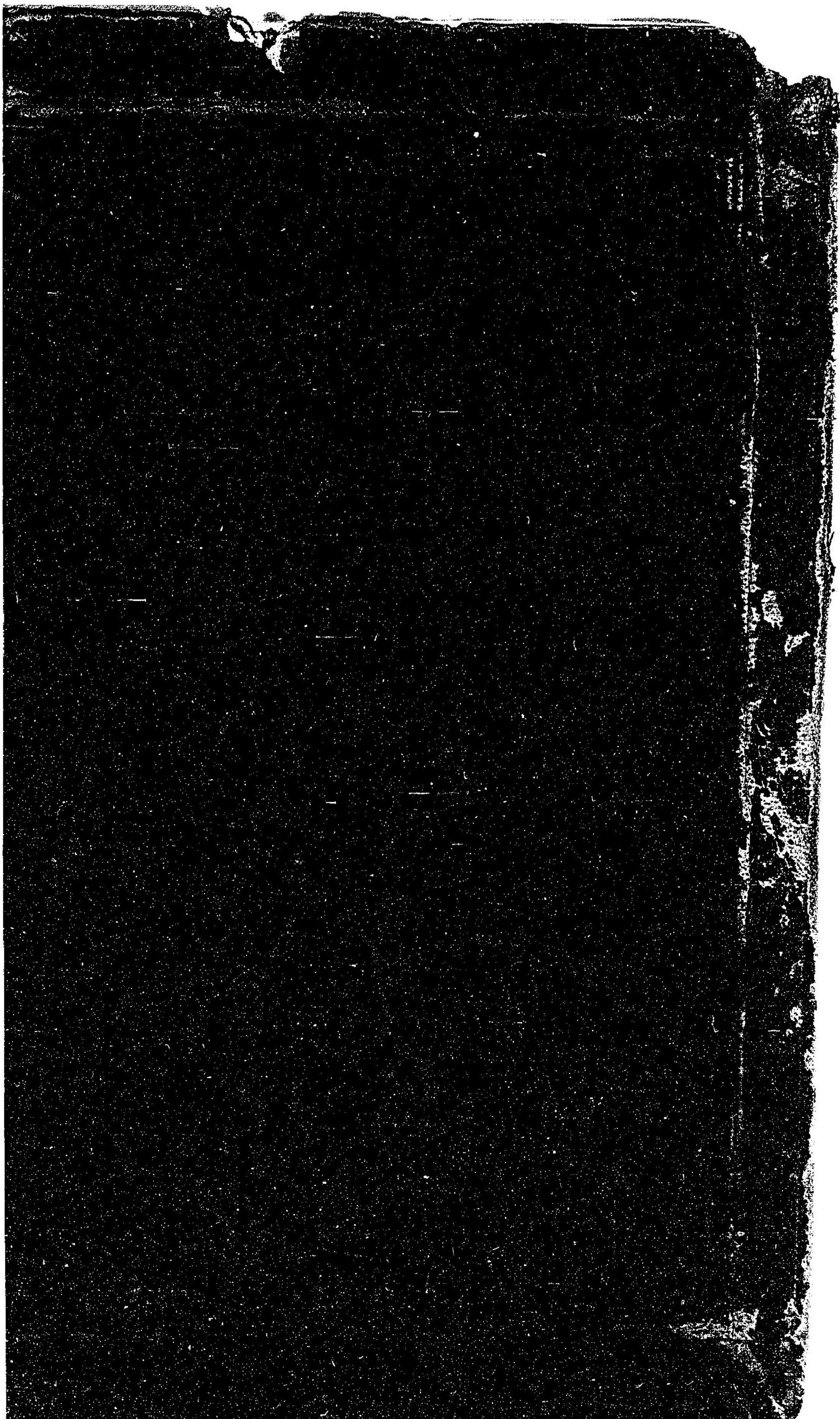
印刷者 松澤 兀三

東京市麴町區下六番町十七番地

同勞舍

6391





禁
電
子
式
複
寫

036552-003-0

CZ-2711-03

大審院刑事判例要旨類集

中央大學

M39-44

BBR-0446



